

第5回総務文教常任委員会会議録

1 開会日時 平成28年5月17日（火）午前10時0分

2 閉会日時 平成28年5月17日（火）午後0時53分

3 会議場所 議会委員会室

4 出席委員

1 番 佐々木雄司君 2 番 光成 良充君 9 番 松田 勲君

10 番 北川 勝義君 14 番 下山 哲司君 16 番 実盛 祥五君

17 番 金谷 文則君

5 欠席委員

な し

6 説明のために出席した者

市 長	友實 武則君	副 市 長	内田 慶史君
教 育 長	杉山 高志君	総合政策部長	原田 昌樹君
総合政策部参与	徳光 哲也君	総 務 部 長	前田 正之君
財 務 部 長	直原 平君	教 育 次 長	奥田 智明君
赤坂支所長兼 市民生活課長	正好 尚昭君	熊山支所長兼 市民生活部参与	入矢五和夫君
吉井支所長兼 市民生活課長	荒島 正弘君	消防本部消防長	黒沢 仁志君
消防本部消防次長兼 警 防 課 長	小竹森美宏君	秘書企画課長	杉原 泉君
まち・ひと・しごと 創 生 課 長	遠藤 健一君	総 務 課 長	原田 光治君
くらし安全課長	中川 裕敏君	財 政 課 長	藤原 義昭君
管 財 課 長	小坂 憲広君	税 務 課 長	末本 勝則君
収納対策課長	土井 常男君	教育総務課長	藤井 和彦君
学校教育課長	石原 順子君	社会教育課長兼 スポーツ振興課長	土井 道夫君
消 防 本 部 消防総務課長	井元 官史君		

7 事務局職員出席者

議会事務局長 奥田 吉男君 主 事 松尾 康平君

8 協議事項 1) 事業の進捗状況について

2) その他

9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（北川勝義君） ただいまから第5回総務文教常任委員会を開催いたします。

開催に先立ち、友實市長のほうから御挨拶をお願いしたいと思います。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さんおはようございます。

本日は大変御多忙の中を、第5回の総務文教常任委員会をお開きいただきましてまことにありがとうございます。

本日の議事でございますけども、6月の定例市議会に上程予定の補正予算等、これについての説明をさせていただくとともに、平成28年度の事業の進捗状況ほかを御審議いただくことになっております。慎重なる御審議をお願い申し上げまして挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、これから協議事項に入りたいと思います。

協議事項の1の事業の進捗状況について、各部ごとで説明していただきますか。それとも、全体やって質問いたしましょうか。どうしましょうか。一応考え方で各部のほうが見えんかなと思うとんじゃけど、どんなですか。

○委員（実盛祥五君） 全体やってもらおうや。

○委員長（北川勝義君） 全体、説明、質問がおかしゅうならんか、ええか。皆ええ、それで。僕は思うたん、各部ごとにしてもろうて、各部ごとに説明受けたらどんなかなと思うたんじゃけど。そのほうが。

○委員（松田 勲君） 委員長にお任せ。

○副委員長（佐々木雄司君） それでええです。

○委員長（北川勝義君） 進行がややこしゅうなるけん、そうさせてもらいてえとありますんで、実盛さん、了承お願いしますんで。

それでは、総合政策部のほうから説明をお願いしたいと思います。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） それでは、総合政策部の平成28年度一般会計補正予算（第2号）の主要事業について。

1ページをごらんください。

秘書企画課、歳入について。

一般寄附金、ふるさと赤磐応援寄附金として3,000万円の計上を予定しております。これにつきましては、今年度より返礼品の充実化を図り、寄附金額についても選択できるようにした

ところ、大変好評で5月現在で昨年の実績を大幅に上回っており、増額を検討しているものです。

続いて、歳出でございます。

総務管理費、企画費、企画関係事業、こちらは今歳入のほうで説明させていただきましたが、寄附金額の増額により寄附金の謝礼等に不足が見込まれるため、ふるさと赤磐応援寄附金増額3,000万円に伴う寄附金謝礼金等として1,445万2,000円の計上を予定しております。

次に、シティプロモーション事業ですが、こちらのほうは地方創生加速化交付金、こちらは平成27年度5号補正専決事業による組みかえによるもので、1,497万7,000円の減額を予定しております。

また、地域おこし協力隊事業でございますが、こちらは農林課の学校給食地産地消事業の取り組みとして給食センターと生産者のそれぞれのニーズを密に連絡調整する役割を担う地産地消コーディネーターとして地域おこし協力隊1名の募集を予定しており、その報償費及び活動経費として314万1,000円の計上を予定しております。

なお、こちらは全額特別交付税措置の対象経費でございます。

以上です。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 引き続きまして、まち・ひと・しごと創生課関連を御説明させていただきます。

まず、歳入でございますが、総務費の国庫補助金の地方創生推進交付金を当初予算に、いわゆる新型交付金ということで組んでおりましたが、せんだって御説明をさせていただきましたとおり、地方創生加速化交付金、5号補正の専決に前倒しができましたので、その関係の減額を3,491万9,000円予定しております。あわせて、今年度の新型交付金といたしまして吉井川の流域広域観光連携事業ということで、これは産建の所管になりますけれども、商工費のほうに歳出を500万円計上されるということで、補助率2分の1の250万円の計上を予定しております。

それから、続きまして丸の2つ目、総務費の県補助金で中山間地域等活性化応援事業補助金というものでございます。先月の委員会でも移住・定住のまち・ひと・しごと創生課に定住促進班創設をさせていただいたということで、その関係に取り組む交流、定住の促進事業につきまして2分の1の補助の、上限があるんですが、計上を予定しております。224万円でございます。

続きまして、歳出でございますが、総務管理費の企画費、あかいわに戻ろうプロジェクト873万7,000円の減額でございます。

1ページおはぐりいただきまして、2ページ目になります。

先ほどと同様でございます。地方創生加速化交付金の前倒しができますので、その関係で1,260万1,000円、該当の対象になる事業の分を減額させていただくと同時に、前回の委員会でも活発な御意見をいただいた中で、戻ろうプロジェクトのこの専用サイトについて動画などの機能を強化してはどうかという御提案をいただきました関係で、386万4,000円を計上させていただこうと考えております。

最後になりますが、移住・定住の推進事業でございます。

こちらにつきましても、加速化交付金の前倒しによりまして対象になる部分の148万5,000円を減額し、なおかつ先ほど申しあげました情報発信の強化あるいは受け入れ体制の整備ということで、さらに取り組んでまいりたいということで県の中山間の補助金を活用いたしまして、移住体験事業50万円、あるいは移住の専用サイト、パンフレットの作成などのPR経費として505万3,000円などの事務費を計上予定させていただきました。差し引き490万5,000円を計上予定でございます。

以上でございます。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） では、続きまして岡山連携中枢都市圏の形成に向けた協議についてでございます。

3ページをごらんください。

御報告のほうが大変遅くなってしまって申しわけありませんが、つい先日岡山市のほうから進捗状況と今後の予定について説明がありましたので、取り急ぎ御報告のほうさせていただきたいと思っております。

昨年の8月にも1度御説明させていただいておりますので重複する部分もございますが、まず概要について、資料のとおり、岡山市を連携中枢都市とする連携中枢都市圏の形成に向けて岡山市、津山市等13市町の間で協議を進めているところでございます。平成28年度につきましては8月に岡山市による連携中枢都市宣言、10月に岡山市と各市町との間での連携協約の締結、翌年3月に連携中枢都市圏ビジョンの策定を目指してございまして、岡山都市圏連携協議会を初めとして、引き続き関係市町の間で協議を行うこととしております。

次に、2の進捗状況につきましては、昨年の6月に事業採択を岡山市のほうを受けられまして、8月には第1回目の岡山都市圏連携協議会を開催しております。ここでは連携中枢都市圏の形成に向けた進め方や各市町の提案事業の検討状況について協議を行っております。また、10月から11月にかけてですが、連携中枢都市圏の形成に係る基礎調査を実施しまして公共施設等の利用に係る現状の調査分析を行っております。また、住民や企業にアンケート調査を実施しております。11月から12月にかけて連携取り組み項目の一部試行実施ということでモニタリングツアーを実施しております。年が明けてことしの2月には第2回目の岡山都市圏連携協議

会を開催しております。ここでは昨年の10月から12月にかけて実施しました基礎調査、モニタリングツアーの実施経過報告を初め、連携取り組み項目に係る協議経過報告、連携施策の概要説明、それから今後のスケジュール等について協議がされました。

連携取り組み項目についてでございますが、4ページのほうをごらんください。

文字が大変小さくて申しわけございません。

まず、タイトルに連携取り組み項目案とあります。その横に小さい字で平成28年2月5日時点と書いてありまして、その下に事務事業名、41事務事業とございます。こちらの41事業につきましては、今現在検討中でございます。これらの中身につきましてはこれからさらに検討していきますが、また詳しい状況等につきましては順次御報告させていただきたいと思っております。

では、3ページのほうにお戻りください。

最後に、今後の予定でございますが、7月に岡山市による連携中枢都市圏ビジョン懇談会の設置及び平成28年度の第1回岡山都市圏連携協議会の開催、8月には岡山市による連携中枢都市宣言、9月には連携協約にかかわる協議の議決をいただくよう予定しております。また、10月には岡山市との連携協約の締結を予定されております。また、同月に第2回目の岡山都市圏連携協議会の開催、来年の1月には第3回目を開催しまして、3月に連携中枢都市圏ビジョンの策定を予定しております。

以上でございます。

○総合政策部参与（徳光哲也君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、徳光参与。

○総合政策部参与（徳光哲也君） それでは、資料のほう5ページをごらんください。

赤磐市と特定非営利活動法人地球年代学ネットワークとの連携協力についてということでございます。

まず、この地球年代学ネットワークにつきましてでございますが、概要のほうにも書いてございます、地球年代学に関する調査研究開発、交流活動を行っている団体でございます、平成26年4月に設立をされております。同法人の理事長には板谷先生が就任されておられて、そのほか国内外の大学や企業の研究者、現在のところ40名ぐらいが参加をされている団体でございます。活動内容につきましては、(2)としまして研究開発、教育活動、展示活動、こういったものを主にやっておられます。特に、地質に関しましての地質災害の調査の研究であるとか、子供たちに地球科学の楽しさを知る体験学習なんども実施をされているというふうに向っております。

3番としまして活動実績でございます。26年4月に設立をされました新しい団体ではございますけれども、そこに3点ほど上げておられますが、国際会議あるいは日本地球惑星科学連合の大会あるいは外国の大学研究機関等との連携、研究教育協定などを結んでおられます。

続きまして、2番目といたしましてこの地球年代学ネットワークとの連携協定をなぜするか

ということでございますけれども、先ほどの(2)の活動内容にありますように、地質や地層の調査あるいは地質災害の調査研究を行ってきている中で、赤磐市には約3億年前の海底で誕生した隆起した地層が見られる、あるいはアジア大陸を源流とする河川の跡が直接の目で見られる状態で存在しているということなどがわかってきております。こういった地球年代学的大変珍しい地域であるということが言われております。これは学術的には大変貴重であるということでございますが、それだけでなくこの地域が大変安定して存在してきているということにもつながっておりまして、さらに詳しく調査研究をしてその成果を公表することによりまして、埋もれていたこの赤磐市の魅力を広く発信するとともに、新たな観光資源としても活用できるものというふうを考えております。また、特に近年発生が予測されております地震、大地震であるとかそういったものへの防災面、教育的方面にも高い効果が期待をされるところでございます。

1ページはぐっていただきまして、先ほど申しました特徴ある地形、地層でございますけれども、写真の左は約3億年前の海底で形成された地層が隆起して直接目で見えるところでございます。吉井地域にあります血洗の滝、済みません、これは血洗いのいが不要だそうでございます。申しわけありません。そういった血洗の滝あるいは右にございます、これは約3,500万年前の河川の堆積した地層と言われております。ちょうどこれは吉井B&G海洋センターのグラウンドのところに見られる地層でございます。こういった非常に特徴的、あるいは貴重な地層が直接目で見れる地域が多く存在しているというふうにお聞きをいたしております。

3番といたしまして今後のスケジュールでございますけれども、こういった貴重な赤磐市の財産となり得るものにつきまして、このNPOの地球年代学ネットワークと協力連携をしたいというふうを考えておりまして、協定につきましては今月中に行いたいというふうに思っております。協定の内容につきましては、現在の案でございますけれども、右のページのほうに掲載をさせていただいておりますので、またごらんください。

それから、先ほども申しましたように、非常に赤磐市、中でも北部地域、吉井地域においてこういった地層を特に研究をしていただきたいということから、現在の吉井支所、空き部屋がございますので、そういった活動拠点となり得る場所を確保するということから支所の空きスペースを使用許可を出したいというふうを考えております。

9ページのところでございます。先ほど申し上げました、非常に特徴的、珍しい、学術的にも貴重な地域ということでございまして、簡単なポンチ絵をつけさせていただいております。赤磐市地域の地質と成り立ちということでございまして、図の左側、約3億年前と書いております、古生代後期、これが先ほどの血洗の滝などでございますけれども、これからどんどん時代が下がってきまして現在に至るまでそれぞれの時期におきまして特徴的な出来事、あるいはその年代の地層のあり方など、それぞれ記載をいたしております。先ほど言いました約3,500万年前から安定した大陸が分かれて日本列島が形成されてきたというようなことにもつながって

いるというふうにお伺いをいたしております。詳しい説明はなかなかできませんけども、この図をごらんをいただいて、この地域が非常にそういった特徴的、学術的にも貴重な地域であると、全国的にも非常に珍しい地域であるということを御理解いただきたいというふうに思いまして図のほうつけさせていただいております。また、後ほどごらんいただければと思います。

簡単でございますけど、以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 総合政策部のほうの説明が終わりました。

委員の皆さん何か質問はありませんか。

質問ありませんか。

ゆっくりでいいです。

○副委員長（佐々木雄司君） なら、僕のほうから。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○副委員長（佐々木雄司君） おはようございます。

私のほうから1点質問をさせていただきます。

連携中枢都市圏の形成に向けた協議なんですけど、市長、これ、済みません、つかぬことをお伺いするんですけど、これどうなんですか、岡山市さんの利点とございますか、利益にうちの赤磐市が引っ張られるようなことはないですか。というのが、それならそれでもいいんですけども、行き来がある近い距離なもんですから、岡山にうちの赤磐市が協力することによって恩恵を与えることができるのであれば、岡山市にも同じようにうちの赤磐市に行き来ができる距離ですから、していただくような、何かそういうようなコアというか核になるようなものがどっか考え方に必要ではないかと思ったりするんですけど、この考え方っていうのは概要の中に含まれているのでしょうか。市長、聞いていただいています。どんなでしょう、市長。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） この連携中枢都市圏の形成ということで、これについて岡山市の利益ばかりで赤磐市には利益がないのではというような意味の指摘だと思いますが、これについてあ岡山やほかの市町との協議をずっと続けておまして、当然赤磐市においては赤磐市に利益をもたらす、市民の利便性が向上するとか、それから岡山市と連携することによってこの赤磐市の優位性がアピールできるだとか、そういったことが実現できることを連携してやっていくということが大前提になつとります。

詳細については何回かの打ち合わせの中で協議はしてまいりましたが、より具体的な方策についてはこれからまた岡山市等々の協議によって決まってくるものと、そう考えているところでございます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

佐々木委員。

○副委員長（佐々木雄司君） 市長ありがとうございます。

それはもうもっともなところだと思うんです。その中で具体的にお尋ねをしますと、僕は心配なことがあるんです。うちの赤磐市の地理的な条件というところを考えていったら、岡山とのベッドタウンと言われてるゆえんから公共交通網の未整備、未発達、これ解消していかなければいけない部分だと思いますし、市長のほうもここはやっていきたいというようなことを以前御発言されたような覚えもあります。そういった中で、26番のところに瀬戸駅、万富駅と赤磐市を結ぶ公共交通ネットワーク構築に向けた検討というのがあるんですが、例えば赤磐市内のドメスティックラインの市内網というようなものを整備するというのは生活者の利便性を高めていくことで赤磐市の政策の中に入ってくると思うんですが、これオーバーシーズラインということで市を超えて広域のバス路線ということになってまいりましたら、今言いましたような岡山市との連携というようなところでこういったようなところに入り込んでくるんだらうなということになったときに、瀬戸駅、万富駅に接続することというのがうちの赤磐市民の全体的な利益になるのかなというふうに私考えたりするんですが、市長、そこら辺はどんなお考えなんでしょうか。

○委員長（北川勝義君） ちょっと口挟むようなんじゃないけど、関連なんで、今、佐々木副委員長が言われることの、これからやっていくんじゃないけん悪い言よんじゃねえんじゃないけど、とりあえず万富が美岡のインターができますわな、万富インターが、瀬戸インターというんか、万富インターというんができらあな、あそこへ今。キリンとの間のとこへ、銅像のとこか、できてくるんじゃないけど、結果的に言うたら、和気町も含めてじゃけど、僕が岡山市と協定してこんなこと、これが悪い言よんじゃねえんよ、していくんじゃないたら、赤磐市のほうが東岡山の駅へバス乗り入れ協定というんかな、学生の足のことを一緒にやっていくんじゃないとか、そねえなんはようわかるんじゃないけど、逆に言うたら今これ赤磐市を通り超えて瀬戸駅とか、瀬戸駅というたら赤磐市じゃねえが、極端な話、通り超えて、何か岡山市のためだけのことをやらせていただきょうるようなことになるんじゃないかというのを、悪いと言よんじゃねえんよ、と思うたんじゃ。それじゃったら、何か余り意味がねえとは言わんけど、メリットが、佐々木副委員長が言うたような考えと同じで赤磐が一個ぐりゃあ、僕は一般質問するけん、そねえなこと聞きよんじゃけど、赤磐市が重点取り組みというんか、赤磐が何かなっていくというようなことは、今考えとんじゃけえまた変えていくんじゃないらうけど、なけりゃおえんじゃねえか。これ今言われたこと、この間も思うたんじゃけど、どうして万富、瀬戸駅のこのことになっとな。これ赤磐市が取り組んどんじゃけど、ここんとこ、変えていくんかもしれんけど、どうしてこれ取り組んだんか説明願いてえんじゃ。今、佐々木さんが言うたんと同じで。メリットというんか、東岡山へ行けという話しょんじゃねえんよ、全然誤解の話じゃのうて。それを教えてもらいてえんじゃけどな。逆に僕何でこういうことを言ようるというたら、危惧しうることが

あるから言わせてもらよんよ。下手したらこれから10年後、和気閑谷高校はのうなるかもしれん、備前高も人口減になってきたら。というのが、そのために和気高行くのがこっちから行けるんじゃないとか、逆に言うたらラインがあつたら和気高生き残るんです。赤磐市から和気高へ行きよる、熊山も皆行きよんじゃないというたら、こう行きよん。逆に言うたら、岡山市は生き残ることばあなるわけ、皆向こう行って。万富の辺じゃつたら和気高行くも近えわけ、いろいろあるんがな。今どう思うんかな、そこらのことを踏まえて。考えがあつたらお聞かせ願いてえんですよ。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） おっしゃることよくわかりますが、これはまだ緒についたばかりですので、当然この万富、瀬戸、その方面が美作岡山道路の建設にあわせてこのルートが必要かどうか、市民が求めているかどうか、こういったのは市民の声をしっかりお伺いして、そして具体的な検討もしていかないといけない。そして、現在片鉄バスで吉井から和気駅まで入っておりますし、こういったものとの競合も考えられますので、やはり一番は利用される高校生あるいは市民の皆様の意見、こういったものをしっかり聞いてスタートすることが重要と考えてるところでございます。

以上です。

○副委員長（佐々木雄司君） 僕はいいです。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って、すぐ終わるけん。

今やり出したばあじゃから、どこがどうこうというんじゃないねんじゃけど、たまたま重点目標というんか、出てしとつたらそういうことになつとるから、僕佐々木さんと同じ意見で、別に話し合いしよるわけじゃねえんじゃけど、何か赤磐市のもんを岡山市に持っていきりよるような気がして、うちもするんじゃないつたらうちも真庭のほうまでは言よんじゃねえんじゃけど、岡山市と赤磐市でひつついとりますが、備前とか和気も、何かちょっとあつたほうがええんかなと思うんで、今後のときに活用してもらいてえと思います。

下山委員。

○委員（下山哲司君） お二人が言われたんであれなんじゃけど、この事業のスタートの目的の意味が、これ今一生懸命見せてもらようたんじゃけど、理解できんのじゃけど、どういう目的でどういうことかというのが知りたいんと、せえから今項目41まであるんじゃないけど、赤磐市に関連したところがどこどこあるんか、わかりにくいんじゃないけど、その辺の説明をお願いできます。

○委員長（北川勝義君） それ皆関係あるけん、関係あること言ようんじゃ。重点目標のどこ

かな。これから考えていくこっちゃろうけどな。

○委員（下山哲司君） うん。じゃけど、そのスタート切る目的が。

○委員長（北川勝義君） 目的。

○委員（下山哲司君） そうそうそう。

○委員長（北川勝義君） 何か岡山市に利用されとるような気がする。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） まず、連携協定の目的ですが、人口減少の社会の中で住民が安心して住み続けられるように各市町が連携し、活力と魅力あふれる圏域づくりに取り組むためというのが目的でございます。

それから、資料のほうの方がわかりにくかったんですけども、4ページのほう見ていただいて、右のほうに各市町が書いてあります。赤磐市のほうが提案させている事業については黒い星印でマークしてあります。それから、参画するものについては丸印がしてありますので、そちらのほうを参考にさせていただきたいと思います。

例えば、提案しているものにつきましては、2番の企業団地開発支援事業、それから20番の有害鳥獣対策研究事業、22番のごみ焼却処理総合支援事業、26番瀬戸駅、万富駅と赤磐市を結ぶ公共交通ネットワーク構築に向けた検討、33番、34番、それから41番に星印がついております。

それから、参画する事業につきましては、1番の圏域での産業連関表の作成、8番、それから13番、18番、19番、32番、35番から40番まででございます。

以上です。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） そういうふうにさっき見ようだったんじゃけど、横1列にぴゅうっと丸があるところは岡山市に協力をするような感じにしか見えんし、一番大事なのはどういう目的でスタートするんじゃというのが知りたいんで、その先に協議の中で考えることなんじゃろうと思うんじゃけど、そのスタートする目的が知りたいん。じゃから、これは岡山県の東地区でしょう。西地区は恐らく倉敷が中心になって似たようなことをやるんかやらんのか、その辺もお聞きしたい。主導が県なんか、岡山市なんか、その辺も知りたい。

○委員長（北川勝義君） これは真庭も入っとろう。都市圏だけじゃねえ、真庭も入っとる。真庭も入っとんじゃろ。

○総合政策部長（原田昌樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、原田部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） この主導は、岡山市が中心になって、岡山市と圏域の各市町

村それぞれが連携をしていくという仕組みになっております。赤磐市としましては、赤磐市にとって岡山市と連携をすることによってメリットがあるものについて提案をしていってこの仕組みを活用して課題を解決していこうということでやっております。

それから、倉敷市のほうは逆にもう既にやっております、高梁川の流域の連携推進事業ということで、かなり倉敷のほうはさきに国のほうで採択されてますので、そっこのほうが進んでいる状況でございます。

以上です。

○委員（下山哲司君） はい、委員長、よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 以前に合併が昭和の1回目、2回目とあって、合併のときからの流れからいけば、岡山県の打ち出しとしたら、岡山県、4つの地区にまとめたいというのが県の考え方だったんです、昔。そういう指導のもとで西と東ということで江戸時代の4つの地区に分けて合併を1つに何十万規模の地域にしたいというのが県の考え方だったんです、当時打ち出した。その後に岡山市が自分のとこだけええことするように石井さんを口説いて政令都市にしてしもうて、自分のとこが全部主導にやりたいというような考え方で、時々僕もニュースで岡山市長の演説しょうられるの見るんじゃけど、やっぱし昔と変わってもう全く県にかわって岡山市がというような状況になっとなすね、今しゃべられることが。じゃから、県やこうそっこのけで、県はお手伝いをするだけみたいのこしかならんので、そういう状況が果たして今後県とこういう関係の中でぎくしゃくせずにええぐあいにやっていけるのかなと思う感じがするんですけど。そういうことはどう思われますか。私はそういうふうを感じる。

○総合政策部長（原田昌樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、原田部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） 県と岡山市との絡み、いろいろありまして、岡山市も政令指定都市ということで県と同等の権限を持たれた政令指定都市ということでやられてますんで、どちらがということはないんですが、赤磐市としましてはお隣であります岡山市、それから広域の団体であります県、両方とも上手におつき合いをさせていただいて、赤磐市にとってメリットのあるようなところをとっていくことが大事だというふうに考えておりますんで、個人的な感想は御容赦願えたらと思います。

○委員（下山哲司君） なら、最後一つでやめます。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 一つ言えることは、それに労力使うて、実際に赤磐市だけでやらにゃあいけんことがおろそかになるようじゃいけんので、その辺だけはよう考えてやってほしいというふうに思います。もうそれでいいです、今んとこ。

○委員長（北川勝義君） 要らんこと思うたんじゃけど、要らんことじゃねえんじゃけど、下

山さん言うた真庭市も入っとんじゃ、県南じゃのうて。何で僕はこっち真庭が、こんなこと言うたら津山が入るけん真庭は入らにゃあ……。

○委員（下山哲司君） 東。岡山県の東地区じゃ。

○委員長（北川勝義君） じゃけん分けとるといふかな、その分け方2つと言うたらおかしいけど、倉敷との間で分けしもうとるが。真庭の辺とうちと、要らんことじゃけど、全然違うんかなと思うて、やっていくことがと思うたんじゃけど。こりゃあそれがええげにうめえこと岡山市が、全体、市長も行かれる中で、ええげにバランスとれるんかな、これ。今そねえなこと思うた。

原田部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） この連携の仕組み自体が、岡山が今やろうとしてるのは、岡山市と例えば赤磐市、それから岡山市と真庭市、岡山市と津山市というような岡山市が中心になってここに上がるとる各市町と連携していこうというようなことを今考えているようです。

○委員長（北川勝義君） 県が直にいきよんと同じことじゃな。

○総合政策部長（原田昌樹君） ですから、そのあたりは大丈夫、調整はそれぞれとれるというふうには考えています。

○委員長（北川勝義君） いやいや、僕何でこんなこと言ようというたら、1つの単発の今バスだけでいうてやるんじゃったら、1ついくわけじゃ。例えば総社市、備前市がやるというて中小企業の経営とかというて1つだけでいくのはいきやすくなるんじゃけど、よそのとこがあつたりしたとき、1番やこうというたら赤磐市が、瀬戸内市が重点でやったらあとは全部賛成しとる、津山市以外しとらあな、県内の産業関連の作成というこつて。したら、連絡がとれるんかなと思うて。玉野市のほうの考えと、それからいうたら、久米南町とか真庭市のほうの考えと合うんかなと、なかなか難しいんじゃねえかなと。今部長が言うたように、交通で一つのこことこれのことを言うたらもうわかるわけじゃ、すぐひつつくんじゃけど。今そう思うて。

やっぱし今聞きようたら、岡山県を乗っ取って政令指定都市になって、悪口じゃねえで、これ考え、岡山市が自分とこに絶えず巻き込んで有利にして、例えば1個の事業することでソフト事業で全然要らんとかというても、金がぜってえ要ることじゃがと思うて、事業費についてきたら。そのとき応分の負担さすようなもんじゃな、させられるようなもんじゃな、極端な話したら、と思うんじゃ。それで、これをするときの事業費というのはどのくれえ要るん。この事業じゃねえんで、これをこしらえてやるときの。連携取り組みしていく事業費というのは何ぼ要るん。組んどんかな。いや、どっか組んどんかな、当初やこう組んどったんかな。

部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） こちらの事務的な経費については、岡山市が……。

○委員長（北川勝義君） 補助金をもらってやるから。

○総合政策部長（原田昌樹君） ええ、国から補助をもらってやることになっておりまして、昨年の5月7日に国のほうへ提案書を岡山市が出してるものでいきますと、昨年度は1,500万円を国からもらってる……。

○委員長（北川勝義君） 早い話が関連市町村の負担金は今んとこ要らんというこっちゃな、この組織づくりのときについては。

○総合政策部長（原田昌樹君） はい。

○委員長（北川勝義君） 事業主体が岡山市になつとるから。何か岡山市に巻き込みようるだけで、取り込まれんようにせにゃおえんで、手に合わんと思うけん。僕は、要らんこと言う、もうこれやめます、要らんこと思うたんが、やるのに、和気町じゃとか備前市じゃとか、津山でもええわ、美咲町、瀬戸内でもええ、ここらとやっていきようるというのはようわかる、議長が備前市と瀬戸内市と赤磐市と市の議長会つくってやりましようというてやるん、そういうようなこっちゃたらようわかる。どうも金谷議長が真庭市も入れてやろうでと言うたら何を考えとんなというて僕らも、わかるかな、言ようること、言わんとすることがあるんでな。そういういろいろなことが僕自身はあったんで。それで、重点的に何かできることがありゃあ、この中はこれから変わっていくと思うんじゃけど。しっかり、市長、行かれたときに岡山市の言いなりにならんようにしてよ。市長、岡山市の元職員じゃったけんというて、よし、わかった言わんように。赤磐市の代表者じゃけん。いや、今言ようんのは、それで思うた。それで、そこをお願いしてえと。

もう一点聞きたかったんが、3ページのとこの岡山都市圏住民アンケート調査6,000人、岡山都市圏企業アンケート調査1,000社となつとりますわな。これまだ案じゃろうけん。赤磐市はどのくれえ調査してくれるん。何言ようるというたら、6,000人のうちに赤磐市じゃったら100人でも対象者がおるんかなという、人口で割るんか地形的にいくんかわからんけど、岡山市が主体じゃろうけん。どんなんじゃろうか、こりゃあ。

○総合政策部長（原田昌樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） じゃから、何人いた。

○総合政策部長（原田昌樹君） 委員長、はい。

○委員長（北川勝義君） 部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） 住民アンケートのほうですが、6,000のうち赤磐市の中で発送したのが400。

○委員長（北川勝義君） 400。ほんなら、結構多い。会社は。

○総合政策部長（原田昌樹君） 会社のほうが、1,000社のうち赤磐市の事業所は32社という状況でございます。

○委員長（北川勝義君） それで、これの絡みなんじゃけど、これに基づいていろいろやられとると思うんじゃけど、何か出てくるん、そういうなんが。今度会議のときに出てこられるん

かな。今後の予定のところでいろいろこういうアンケートしたというんは出てくるん。出てきたらまた今度でよろしいんで、アンケートもこういう多い上の、ええんじゃけど、特に赤磐が言うたというのが欲しいんじゃ、よそのことはどうでもええんじゃけど。難しいかもしれんのじゃけど、わかりやあで。そう今思うたんで。よろしいです。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。アンケートの聞くことのほうが知りたい。

○委員長（北川勝義君） そう、それを聞いてえんじゃ。それを、じゃけんどこを言うたら…

…。

○委員（下山哲司君） 結果より。

○委員長（北川勝義君） そう、赤磐がどう言うたのを聞いてえけん赤磐のほうを聞いてえということを言よんじゃ。それは難しいんかな、やっぱり赤磐だけというたら、抽出というたら。

部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） 全体的な傾向としては今報告はいただいているんですが、市内の人がとか、市内の事業所がどういう回答しているかっていうのはまだもらってありませんので、その辺は確認をしてみたいと思います。

○委員長（北川勝義君） わかったわ。はい。

○委員（下山哲司君） 問うたほうを。

○委員長（北川勝義君） 質問をな。

○委員（下山哲司君） 質問、アンケートの。

○委員長（北川勝義君） 質問内容を言うん。

○委員（下山哲司君） 内容を見せてくれる。それが先じゃ。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 待って、すぐ終わる。

もう一点、これ角度変えるんじゃけど、前もろうたんかもしれんのんじゃけど、地域おこし協力隊じゃとか、定住じゃとかいろいろコーディネーター、コーディネーターはもろうてねんじゃけど、移住・定住のとか、パンフレットやこうできとんがあるん、今。前は一部もろうたけど。今まだつくりようる、動画にせえとかなんかいろいろあつて。つくりようるとき、どんな、できとんがあるん。

はい、課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 済みません、移住関係は、例の戻ろうについては、せんだって……。

○委員長（北川勝義君） この間のあの分だけじゃな。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） はい、お配りしたもんがあつて、今回補正で今度移住のぜひPRできるようなものをつくらせていただきたいということで、まだちょっと

これからなんです。申しわけございません。

○委員長（北川勝義君） 何か動画か何か言うたのかな。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 動画の関係とか、パンフレットとかもこれからつくらせていただいと思っております。よろしくお願いします。

○委員長（北川勝義君） せえから、もう一個、全然関係ねえことでまた、1個もうこれで終わる、前の赤磐のPRの、するようになってったが。コップじゃとか、コップはせんけど、ありゃあどねえなったん、できたん。ファイルが、こういうファイルになったとか、できたん。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） あかいわモモちゃんの縫いぐるみですとかはもうできております。

○委員長（北川勝義君） 縫いぐるみ、ちゃうちゃう、ファイルかこんなもんをつくると言うて。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今年度の……。

○委員長（北川勝義君） まだできてねえん。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、これからつくっていきたいと思っております。

○委員長（北川勝義君） それはいつごろできるん。

○秘書企画課長（杉原 泉君） もうこれから今どういったものをつくるかというの、具体的に検討しているところですので。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、市長な、和気町へ勉強行かれえ。和気町早えど。とっととととと、フジコちゃんじゃとかわけまるつくって、次々次々コップからすぐつくりょんじゃ。やっぱりPRになると思うんじゃ。ぜひそれは早うしてください。言ようたらできたん12月ごろじゃったというたら何の意味ありゃあへなんだ、当初で上げてやる必要ねんかなと思うたんで。よろしいです。

佐々木委員。

○副委員長（佐々木雄司君） 済みません、3ページにまた戻っていただきまして、2の進捗の中で11月から12月、モニタリングツアー4コースの実施ということなんです、この4コース、どんなコースなんでしょうか。もしわかれば教えていただけますか。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、副委員長。

○副委員長（佐々木雄司君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） こちらのほうは周遊するコースで4コース設定しております、コースとしましては、まず早島、玉野コース、それから真庭、津山、美咲、久米南コース、それから、済みません。

○副委員長（佐々木雄司君） ペーパー欲しいな。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 真庭、津山、美咲、久米南のコース、それから3つ目が岡山、総社コース。

○委員長（北川勝義君） どこどこ。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 最初から申し上げますか。

○委員長（北川勝義君） コピー焼いてくれりゃええのに。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい。とりあえず申し上げますので。

○副委員長（佐々木雄司君） 聞きたいのは……。

○委員長（北川勝義君） 赤磐があるん。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、赤磐はないです。

○委員長（北川勝義君） ねえのにこねえなことしてどねえするん、おめえ。要らん金を使うてから、おめえ。

○副委員長（佐々木雄司君） それで、かなと思ったので。はい、いいですか。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

もめごとばあ起こしょうる。

○副委員長（佐々木雄司君） 4ページ見ていただいていいですか。

4の戦略的な観光施策という中で、8番です、事業名で言うと。この中で周遊に向けた歴史文化自然発信事業ということで、津山市さんが提案してます、総社市さん提案してます、真庭、和気、早島町さんが提案しているものにうちの赤磐が参画するっていう話になった場合、どんな参画の仕方になるんでしょうか。というのは、先ほど委員長もおっしゃいましたけども、ほかの委員も言われたことなんですけど、余り遠いところだとうちの赤磐のメリットっていうものがないんじゃないのかなと。近いところと連携をするっていうんであれば何かしらの影響というのは受け、いい影響というのをいただくこともあるかと思うんですが、総社市とか余り離れたところの提案に赤磐市が参画するっていうのはイメージつきづらいんですけど、もうちょっとわかりやすく何かわかれば説明いただいていいですか。どんな内容になるんでしょうか。これから詰めていくっていうことなんですか。

○総合政策部長（原田昌樹君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、原田部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） 具体的な中身についてはこれからいろいろ協議をして進めていこうということですが、例えば歴史的なものつながりで赤磐と同じようなテーマで周遊できるようなことを考えると、例えば近くで瀬戸内と和気と赤磐で周遊コースを考えると、そういうことも別のところでもやっておりますし、この中ではそれぞれどういったことができるかというのをこれから具体的には話し合っていくことになります。

○委員長（北川勝義君） ちょっと要らんことを言うんじゃけど、これ僕は反対じゃねえ、やって前行くんじゃったらええんじゃけど、前から言よんじゃけど、これ片鉄バスもやめると

か、美咲がやめて、今度備前市がやめて、そういうとこのことでして意味があるんじゃないかと思うて、広域的な観光するんじゃないたら国土交通省でも今やりようる観光の担当に言ようのは、わしゃ今まで何遍も会うとる、言うのは、やっぱり余り大きいこと言うたら直島とかそねえな大きい話し出したらおえんけど、足立美術館も、赤磐から今度は圏域でいうたら備前、東備地方振興局管内じゃろ、昔の、言うたらおかしいけど、岡山市も入れてもええんじゃけど、広域で言うたら閑谷学校行くじゃとか、備前焼行くじゃとか、瀬戸内の牛窓の辺行くとか、それから赤磐のどこへ来てドイツの森行くとか、菊ヶ峠で備前焼見るとか、湯郷も行ってもええ、例えばそこらのそういう、桃を見るとか、例えばあるが、そういうことを僕はやってくれると思うたん。もし備前、和気、今、美咲でやるんじゃないたら広域のところで、吉井川の沿線と言うたらおかしいんじゃけど、そこら辺とかめぐるとやなんができるんかなと思うた。単発で赤磐は何ものうて、ほんならそこだけ行くというて、何かそのために金出して何するんならというて言いてえような。逆に言うたら大きい意味じゃたら英国庭園のも出とった、ほかのことで。そういうなほうのがわしゃ効果が僕自身あると思うんじゃけど、どんなですか。

○総合政策部長（原田昌樹君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 最後までさして。どんなかな。結果的には備前市や勝手にやめたところばあの尻拭いでやりようるだけでばかばかしいじゃねえかと思うて。

○委員（下山哲司君） 備前市やこう岡山県とせずに兵庫としようる。

○委員長（北川勝義君） 赤穂としようるな。

○委員（下山哲司君） 相生とな。

○委員長（北川勝義君） どんなんかな。ちょっと教えてください。

はい、部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） 連携中枢都市圏の中ではそういったテーマでいろいろ連携できるところはやっていこうというふうにはやっておりますが、具体的な観光の連携としましては、これとは別のところで地方創生の新型交付金でも今回補正予算へ計上をさせていただいておりますが、吉井川の流域の広域観光の連携をやっていこうということで、現在和気町、瀬戸内市といろいろ相談をしながら協議をやって……。

○委員長（北川勝義君） いや、原田部長、とめるけど、僕言いたかったのは、こっちのこともあるんじゃけど、こけえこの50万円出していきようる250万円の意義がありやあすまあがなというて、向こうで備前市やこうのええことだけされていくんじゃたらたまったもんじゃねえということ言いたかったん。250万円の吉井川流域広域観光連携事業、500万円で補助率が2分の1の、これのことやこうは何か意味ありやへんということを言いたかったわけじゃ。やりよんのはどういう意味でやりよんか。さっきも言うた片鉄やめるとか言うたところへ何でそねえなことをせにやいけんのんならというて言いたかった話をしょんじゃ。

○総合政策部長（原田昌樹君） 備前は今は入ってないです。

○委員長（北川勝義君） 今そう思うて。美咲も入っとる、今絡みが、思うたんです。よろしいですわ、あとまた今度聞くから、よう詳しゅう。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 最初に戻るんですけど、ふるさと赤磐応援寄附金がふえたというのはすごいんですけど、このふえた要因、こうしたからこんなにふえてますというのをわかれば教えていただきたいのと。

それから、さっきの動画の関係です。すごいこの前のあれが早速動いてくださったんじゃないかと、ただしっかり、長い動画じゃなくて短い動画でいいんで、いいのをつくっていただきたいなということで、これは要望ですけど、お願いしたいのと。

それから、さっきからも皆さんが言われている連携事業の件ですが、これを見てると確かに交通のこともあるんですが、福祉とか教育が全然赤磐市が参加されてないんですけど、これはいいんですか。例えば学校間の交流事業とか学習事業なんかはいいんじゃないかなと思うんですけど。また、子育ても保育園の、たしか牟佐じゃなくてこっちの国分寺のほうでしたか、前そういった連携の話があったと思うんですけど、その辺の逆に保育園の少ないところもあるし、あふれてるところもあるし、そういったことも含めて相互のつながりというんか、あればいいのになというのがあるんですけど、そういったことは考えてらっしゃらないのかなということと。

先ほど北川委員長からの話もあったんですけど、私はもともとJRの促進も大事だと思うんですけど、バスの促進も大事だと思うんです。そういった中で、やっぱりさっきから出てる東岡山駅の利用というのは大事なんじゃないかなと、今後ですね。やっぱり東岡山駅までは山陽本線と赤穂線が両方あって便が多いんです。私もそうなんですけど、東岡山に子供を送り迎えしてる方も結構多いんです、現実問題。宇野バスさんの関係だと思うんですけど、地元、牟佐のあたりの方もやっぱりそれを期待されてる声を聞いているんです。そういった意味で連携をとられたらいいんじゃないかなと。そういう促進を連携の中で宇野バスさんに要望するなりして、そういった路線も考えて検討したらやっぱり相互の協力、連携事業としてはいいんじゃないかと思うんですけど、そういったことも何もついてないんで、参加すべきじゃないかなと私は思うんですけど、そういったことは全くないんでしょうか、教えていただきたいと思います。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） まず、ふるさと応援寄附金の増額の原因なんですけれども、返礼品の種類が10品目から56品目にふやしております。また、寄附金額のほうも3万円のみであったものを1万円、2万円というふうに変更できるようにしております。その結果ということだと思われま。

それから、連携取り組み項目のところで保育園関係ですとか、教育関係の参画がないということなんですが、まだ現在検討段階ですので、これから参画できるものもあるかと思っておりますので、今後さらに検討を進めていくことになるかと思っております。

それからもう一点、東岡山駅の利用についてなんですけれども、こちらのほうも御意見のほう参考にさせていただいてこれから検討していきたいと思っております。

以上です。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 御要望ということだったんですけども、戻ろうのほうの動画の作成についてまたぜひいいアドバイスをいただいたりして副委員長にもお世話になって、会員にもなっていたら、ありがとうございます。盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 定住のがあったときに、岡山市やこう物すげえ1人でやりようたが。じゃけん、やっぱり動画やこうはええんじゃねえかと思うで、見て。何かとまっとる、動きようるほうが何か。せえで、こんなこと言うたら市長大変怒るけど、岡山市の市長やこうようテレビに出たり、だあだあだあだあしょうるが、だあだあしょうる言うたら言い方悪いけど。瀬戸内市の市長やな。市長、テレビ出にゃおえんで、出てやらにゃあ。赤磐モモなんとかというFMやこうはうちらあ聞こえんのじゃけん。わかる、言ようること。山陽のこの辺は聞こえてもうちら入らんじゃ、FMがな。レディオモモか、あれもできんけん。よう前出るように、市長、やっってください。何かそうせにゃあ、市長、前出んけん、すぐしもうたんかと思われたらおえんけん。市長がどうこうというんじゃねえんで、赤磐市がで。ぜひお願いしますから。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ありがとうございます。

さっきの動画の件なんですけど、動画も含めてホームページもそうなんですけど、今若い子はもう皆スマホなんです。だから、スマホ対応にしないと動画を見てもできないとか、ホームページを見てもスマホ対応じゃなかったら、こう化けてなったりとか、大きくなったりすんです。だから、そういったこともあるんで、基本的にはスマホで見るのが一番だと思うんで、スマホ対応ができるような、そういったことも考慮してやっていただきたいなと思っております。

それから、先ほど言われた連携事業の件なんですけど、これ決定じゃないんですね。これからまだこれどんどん煮詰めていくわけですね。何もついてないから何もないかなと思うんですけど、やはり学校間の交流なんかは必要だと思いますし、それで特に教育委員会ですね、県の教

育委員会と市の教育委員会もつながるべきだと思うし、僕がずっと言ってる学区のこともあるんで、もっともっと連携をしていただきたいなと思います。

あと、交通網の関係は、先ほど最初に出た万富とか瀬戸駅とかというのはあるとは思いますが、ほとんど今の話を聞いてたら大きなメリットがあるようなないような、岡山市にとってもそんなにないんじゃないかなというような感じがします。高規格道路ができるからというのがあると思うんですけど、真っすぐ行くんじゃなくて、例えば佐伯をおりたりとか、熊山インターを通過していくとかになれば乗る方もふえてくるし、素通りでばあつと行くんじゃなくて、そういったことも考えながら提案されたらいいんじゃないかなと思いますんで、利用者がふえる方向をしっかりと考えて提案していただきたいなと思います。

東岡山駅の件は、本当にあそこバスは通るんですけど、バスの回転所もないんです。表側はきれいになってるんですけど、相互乗り入れという形にはなっていないんです。だから、こっちからいけば、東岡山駅の南側じゃなくて北側はほとんどバスがとまれないような状況になってますんで、そういったことも含めて連携されたらいいんじゃないかなと。喜ばれる方ははっきり言って多いと思います、東岡山のほうが。そしたら、今まで自転車で瀬戸駅に行ったら子供たちがほとんどバスに乗って東岡山まで行けば、城東とか東岡山工業とか、あの周辺の高校とか行けますので、そっから自転車で行けるということもあるんで、電車を利用せずにバスで行こうと、そっからまた電車に乗っていこうという人もおるでしょうし、いろんなパターンがあると思うんです。特に連携事業というのは本当に赤磐市にとっては岡山と本当につながりが深いと思うんで、そういったことも考慮しながらしっかりと提案していただきたいなと思います。よろしくをお願いします。要望でいいです。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○副委員長（佐々木雄司君） もう一個聞いていいですか。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○副委員長（佐々木雄司君） 僕、もう一個聞かせてください。

4ページの19番、聞いてええんかな、ごめんなさい、大規模なスポーツ大会等の受け入れ体制の整備ということで、もう軒並みずっと皆さん賛成していただいている、参画することが決まっているんですが、大規模なスポーツ大会って何です。今もし決まってるのであれば教えていただけませんか。どんなものを、例えばオリンピックを呼び込もうとするというのは無理にしても、何か大規模なものというのは何なんですか。何を呼び込もうとされていらっしゃるんでしょう。

○委員長（北川勝義君） 助けに変なこと言うんじゃないけど、こういうなんを皆つくるわな、市長な。市長、こういうことをやりますわな、協議会つくりましょうとか。議長の場合は議会のあれじゃけど、市長らあ広域でやっていこうというような話ができて、こういうことをどういうふうに思ってやりようる、全然、これ生意気な、我々議員には、いっつも佐々木さん言よう

る、僕らも、下山さんは何の目的でやりよんならと言うといて、足を引っ張ろうというんか、引っ張らんでも、どういうことやるん、やるときに我々議員もこういうなんをやるときに、こういうことをやりてえんじゃとか勉強会というんか、こういうこと考えとんじゃと、こういうあるんじゃというてアイデアねえかというてやってもろうて、それからやっぱりやってもらいてえと思う。何かもう執行部がぱぱぱと考えるてだあつと出すだけで、こういうなんが一応案であるんですと言うて、それ注意したら、注意というか意見言うたら、いやいや、これまだ検討しよんでこれからまだあるんですというて、いっつもそういうパターンになりがちじゃろうと思うんじゃ、何でも。そこら、市長、これもそうでしょ、市長。議員とか皆さんの意見やこう聞いてなかり、全然。執行部だけの絡みじゃろ。とか、今アンケートが出てきたときのあれで出しとるだけじゃろ。

○委員（下山哲司君） ちよつとええ。

○委員長（北川勝義君） はい。違うんかな。

○委員（下山哲司君） 今横から聞きようたら、まだ担当が理解でき切れてねえんじゃろ。担当自体ができ切れてないんじゃないん、理解が、この内容自体を。だって、ずっと答弁が出てこん……。

○委員長（北川勝義君） 担当、しとるわ理解。

○委員（下山哲司君） 問うたことに答弁出てくるんだったら理解できとんじゃろうけど、質問したら変えようるようなことじゃったら到底不可能な話にしか思えんのんじゃけど、その辺は市長、どのくらいの状態なんですか、今。担当職員さんはもうこのことを皆理解できとんですか、内容的に項目を。

○委員長（北川勝義君） 原田部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） 先ほどの佐々木副委員長の御質問、まずはお答えできてなかったんで、まずそれ。

オリンピックというんではなくて、中四国大会とか、できたら全国大会とか、そういった大規模な大会をやっていきたいというので、そこではどういったものが引っ張ってこれる……。

○委員長（北川勝義君） するような場所があるんか。

○総合政策部長（原田昌樹君） グラウンドがどういったものがあるかとか……。

○委員長（北川勝義君） するような場所があるんか。

○総合政策部長（原田昌樹君） そんなことの可能性をいろいろ、要は結局そうやってにぎわいをしていこうということでありませう。

それから、下山委員の御質問、担当が消化できてないんじゃないんかということではなくて、いろいろ議論が進んでましたんで、お答えするタイミングを逃してしまつて答えるのが遅くなって申しわけなかったんですけど、一応……。

○委員（下山哲司君） 理解できた。

○総合政策部長（原田昌樹君） はい、それぞれ頑張ってやりようります。よろしくお願ひいたします。

○委員長（北川勝義君） 失礼な話、ちょっと変なことを言うんで。これも市長聞いとるかもしれんけど、議長も聞いとる、備前市の運動公園があるが、久々井の。ペケで予算つけんようになったが。それ、備前市のほうの議員やこうちよろちよろと、議長も個々に話ししょうたら、利用する者が金を持ってくりゃあええんじゃというて、またむちゃくちゃな話を言うたりしょうて、それも今大規模なというて、陸上ホッケーだったら使えるかもしれん、赤磐が。あと以外のとこというたら、何を使うんなというたら、グラウンド整備せにゃあおえんけん、全国大会やこうできるとこありゃあすまあ。

○総合政策部長（原田昌樹君） グラウンド・ゴルフ。

○委員長（北川勝義君） グラウンド・ゴルフの全国大会、まあええわ、要らんこと。今思うて、やっぱそういうことになったらでええ整備していかんやあおえんことになろうな。

○総合政策部長（原田昌樹君） 基本はある施設を使ってやるのがベースで。

○委員長（北川勝義君） 結果的に僕は、これ赤磐がやっていくと言うけど、岡山市と連携じゃあから岡山市を使うてやるとか、例えば隣の大きい学校やったら環太平洋大学というたらありゃあ岡山市じゃけえな。結果的には赤磐市には、まあええわ、ちょっとそう思うたんじゃ、整備せん限りは使いにきんかなと思うて。ちょっと要らんことを思うたんよ。まあよろしいです。

他にありませんか。

はい、実盛委員。

○委員（実盛祥五君） 原田部長にですが、新見みたいなソフト、ずっとやるが、大会を、やっぱり赤磐市もそういう一定の大会をずっとするようなことを考えんとだめだと思ふよ。あれもするんじゃ、これもするんじゃと言ふたらほんまに会場が要るから、どれか一個を集中して、新見みたいにな。もう全国的に有名になったが、ソフトが、ああいう形式でいかんと、赤磐市も。やっぱり全国的なことを考えてやらんと無理じゃ。うん、もういろんなとこから来てもろうて。新見みたいにああいうことをやらんと、あれもするんじゃ、これもするんじゃと言ふたらほんまの場所がないやん。

○委員長（北川勝義君） ほんまじゃあな、そりゃ。

○委員（実盛祥五君） だから、そこらで早うやって、すんならもう。今頑張りようる子がまたそういう大会に出れるような体制で早うやらんといけん、何でもスピーディーに。熱意を持ってよ、熱意。ちょっとわしは熱意が足らんと思ふんよ。

○委員長（北川勝義君） そりゃあほんまじゃ。

○委員（実盛祥五君） やっぱスピーディーな熱意を持ってやってくれんと、僕は今ずっと見ようるけど、ほんま何か熱意が足らんと思ふ。だから、そこらはもっと赤磐市民の皆さんが

豊かになるのも、そういう職員の方が熱意を持ってぱっぱっぱとやってくれんと、と思います。頑張っってやってえよ。

○委員長（北川勝義君） 今言ようことの結果的に言ったら、この赤磐にはサッカーも少年サッカーで頑張りようるわけじゃ。じゃけど、請願も要望書も、当時山田議長宛てじゃとか、荒嶋市長宛てに要望書も全部出して、サッカーの全国大会というてずっともう桜が丘も皆出てきた。結果的には何にもせん。やれでも百条と、百条は2遍で、百条と、それから悪いけど批判だけじゃ、ちいたあええことやっしてくれにゃあいけん。グラウンド・ゴルフ場はできたけど、あとはもうほんまスポーツのところでいうて、グラウンド・ゴルフ場できただけでスポーツ施設できてなからう。アイスホッケーの陸上ホッケーのこの観覧席をしたぐれえなもんで、あと何にもしてねえんじゃねえん。やっぱちよっとな、そういうサッカーでもするとか考えてやっしてくれなんだら芽に出んと思うで。運動何とかしょう、何とかしょうというて行くところがねえ、よそを借りに行きんせえやこう言よったらもう意味ねえというんかな、今そう思うて。やっぱりな、これ要らんこっちゃけど、どことは言わんけど大阪であるところが甲子園出にゃあおえんというて、一番何がええんなというて、名前売るのは何がええんな、サッカーもええんじゃけどラグビーもええんじゃけど、剣道も自転車もええんじゃけどというていろいろ言ようたら、一番手っ取り早い空手もええ何ならと言うたら、空手と言わずサッカーがええと言う者がおりゃあ、やっぱり野球じゃと言うて、甲子園出るためにどうすりゃあええんならと言うたら、理事長決裁で芝敷いたんじゃ、それでナイター場をつくったわけ。そしたらやっぱり甲子園出たんじゃ、準優勝とか出だしたんじゃ。じゃけ、そういう気持ちにならなんだらスポーツしましよ、何とかしましよというて何にもねえのに、そりゃスポーツも前に行かん、そりゃあ、言うち悪いけど。何ぼ今、要らんこと言わせてもらやあ、北島康介という人がおられて偉え言うけど、あの人もプールがねえ、吉井川だけじゃって、砂川で泳げ言よったらもうならんど、飛び込みしよるものは。やっぱりプールがあって、施設がそれだけあるからできていくんじゃねえかと思うで。そういうのを、実盛さんが言うた話じゃねんじゃけど、前に実盛さんが一般質問したら、ナイター設備はしませんというて軽う教育長に、情がねえなと言うて実盛さん怒りようたがな。じゃねえけど、やっぱりそういうなんを考えてもらいてえ。すぐせえ言よんじゃねえんで、やっぱり優先順位もあろうけえ。考えてもらいてえと思うんじや。こりゃあ僕の要望なんで。もし、佐々木さんが言うた全国大会やっちやろうとか、もし決まりましたと、ほんな何をしてくれるんならというたら、サッカーでもしちやるというたらどこへサッカー場があるんなというたら、環太平洋大学もできんのんじゃというたら、あれ反対せずソフトボールでも環太平洋大学できとったらそこでできるといふことがあるけども、反対ばあじゃけんできりゃあへんで、そりゃあ。それと市長、要らんことを言うけど、市長、教育長な、ちいたあ決断してくだせえ、やるというのを。やけくそじゃねえんじゃけえやりゃあええが、少々のは。備前の市長やこう、おめえ、ぶっちぎりいきようるで、そういう意

味じゃあ。ちょっとまあ要望です。要らんこと言うたけど。

それでは、休憩もあるんじゃないけど、次の総務部のほうでお願いしたいと思います。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○総務課長（原田光治君） 総務部からは……。

○委員長（北川勝義君） マイクちょっとこう。

○総務課長（原田光治君） 総務部からは総務課から2件説明させていただきます。

1枚おはぐりください。

1つ目が、赤磐市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例についてです。

いわゆるマイナンバー法におきまして、自治体がマイナンバーを利用できる事務につきましてはあらかじめ定められておりますけれども、各自治体が条例で定めている事業については、各自治体が条例で定めることによりましてマイナンバーを利用できる、利用可能になることと想定しております。この想定している規定がマイナンバー法の9条2項になります。今般、個人番号を独自利用する事務の報告を受けている次の事務を規定するものです。

1つ目が、赤磐市心身障害者医療費給付条例による医療費の給付に関する事務で、受給資格者証の交付に係る審査手続等における利用を想定しています。

2つ目が、赤磐市ひとり親家庭等医療費給付に関する条例による医療費の給付に関する事務で、上記同様に受給資格者証の交付に係る審査手続等における利用を想定しております。

3つ目が赤磐市子ども医療費給付に関する条例による医療費の給付に関する事務で、同じく受給資格者証の交付に係る審査手続等における利用を想定しています。

次に、2ページ目をごらんください。

2つ目で、平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）関連についてですけれども、総務課関連のものとしては次のものになります。

1つ目が、住民情報システム運営管理事業というものになりまして、国の規定によりマイナンバー事務については地方公共団体情報システム機構へ委任してるところでありますけれども、マイナンバーに係る通知カード・個人番号カード関連事務交付金を増額するための補正予算を計上するものです。通知カード・個人番号カード関連事務委任交付金としまして、補正前の340万4,000円に対しまして、今回の補正額が719万8,000円で、補正後の額が1,060万2,000円となるものです。この補正前の額につきましては、前年度中に国から事前通知がありまして、それに相当する金額を当初で計上していましたが、4月に入りまして変更交付決定が参りましたので、そのことに伴います補正予算を計上するものです。したがって、上記に伴う歳入として明記しておりますけれども、歳出と同額の719万8,000円の補正を見込んでおります。

補正予算の2つ目としまして、地域情報化事業です。総務省が提案しております新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化に係る対策を講じるための補正予算を計上するものです。これは、昨年の国におけます日本年金機構の個人情報漏えい事件を受けまして検討がなされまして、セキュリティ対策の抜本的強化を行うよう国からの通知を受けまして、対策に必要な予算を今回計上しようとするものです。金額としましては、当該事業の予算、補正前の3,966万1,000円に対しまして、今回の補正をお願いする額が6,407万1,000円、補正後の額が1億373万2,000円になるものです。事業費に対しまして補助額が小さいのと、あとリースでは補助対象外となることから、単年度で多額の費用計上とすることになりました。これは県下でも全市町的に取り組んでおる事業でもありまして、今回計上させていただきたいと考えております。

歳出に対します歳入の関係ですけれども、国の情報セキュリティ強化対策費補助金としまして、基準額1,710万円に対する2分の1の855万円、起債としまして施設整備事業債を3,520万円を計上いたしております。先ほどの差し引きで一般財源のほうが2,032万1,000円となりますけれども……。

○委員長（北川勝義君） 何を同じことばあずつと言よんな。ええんじゃねんか、これ。まだ言うんか、当分。もうほんなら飯食うてやろうでずっとこれ。

○総務課長（原田光治君） 済みません。

以上です。

○委員長（北川勝義君） いや、同じこっちゃろう。

総務部の説明ありました。今要らんことちゃちゃ言うたようなんじゃけど、これ同じことで、個人番号と予算だけで、これについて質問がありましたら、皆さん何か。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） もうええんじゃろ、そう説明せんでも。

○委員（下山哲司君） 歳入。

○委員長（北川勝義君） 歳入、入ってきてトンネルで出さにはおえん分じゃが。

○委員（実盛祥五君） よろしいが。

○委員（下山哲司君） ええが。

○委員長（北川勝義君） まだあるんか。

それで、僕が言うた、1番、2番の心身障害者の医療費、これはもう国の制度に基づいてとるけん新しゅうこれだけ別個にこしらえるんじゃな、再度確認したら。

はい、課長。

○総務課長（原田光治君） 制度としては、全国的にあるもんです。

○委員長（北川勝義君） じゃから、これだけ条例でこしらえるんじゃろうというて、赤磐市がと言よんじゃがな、同じことを。

○総務課長（原田光治君） はい、新設します。

○委員長（北川勝義君） 同じことを言よんのに、もうよろしい。
他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ次の財務部に移りたいと思います。

○管財課長（小坂憲広君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 管財課からは2件御報告させていただきます。

まず、1件目ですが、赤磐市公共施設等総合管理計画実施に係ります公民連携についてでございます。

資料1ページをごらんいただきたいと思います。

まず、1番目に書いてあります赤磐市の現状、課題と公共施設総合管理計画についてでございます。

赤磐市では、平成28年3月に赤磐市公共施設等総合管理計画を策定しまして、赤磐市内の公共施設等の現状把握、さまざまな課題の抽出、資料に記載してあります1番の(2)番、(3)番のような市全体や各施設類型の基本方針及び削減目標を定めております。

資料の1ページ目の2番になりますが、民間活力の導入と余剰資産の利活用について記載しておりますように、現在既に遊休化している市有地や公共施設だけでなく、今後の公共施設の再編に当たりまして遊休化していく公共資産や低稼働施設等をどのように有効活用して市の財政状況の改善につなげていくかということが大きな課題となっております。計画推進のために必要となります公共施設の質・量の最適化、それから公民連携による必要な施設整備や既存施設等の有効活用の推進、この2つの柱を両輪として回していくことによりまして、機能の集約、複合化で公共施設等を減らしながら民間等と連携し既存施設の有効活用や必要施設を一緒に整備していくなど、削減目標の緩和だけでなく地域のにぎわい創出や活性化も期待できると考えております。

続きまして、資料をはぐっていただきまして2ページ目になります。

3番の人材育成研修プログラム及び専門組織との連携の項目でございます。

赤磐市公共施設等総合管理計画を実効性のあるものとして確実に推進していくためには、高度な専門知識を有した職員専門家を育成していく必要がございます。平成27年度におきましては、行政職員だけでなく議員の皆様にも推進事業について御理解をいただくために、下の枠内に書いてあります研修会を実施いたしました。今年度からは公有財産の有効活用や公民連携などについて御理解いただけるよう市民の方々も対象にした研修会などを開催していく予定にいたしております。この研修をしていただきました一般社団法人公民連携事業機構は、このようなつながりの中で赤磐市の現状や課題、その処方箋を十分に分析・理解しており、また今年度

から公民連携事業機構の保有している専門知識と経験、豊富な全国的人材ネットワークに基づいたサポートを行う新たな実践的な取り組みを開始する中で、より深い連携を図りまして一緒に赤磐市の地域課題を解決していく予定といたしております。公民連携事業機構とは6月に協定の締結を予定いたしております。

最後になりましたが、公民連携——通称PPPといいますが——とは、自治体などの公と民間企業などの民が知恵やノウハウ、資金などを出し合いましてよりよい公共サービスの提供を実現するといった手法でございます。国におきましても公民連携を積極的に推進すべく、平成11年に民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律——通称PFI法と言われております——こちらのほうを制定し、平成27年に多様なPPP、PFI手法導入を先進的に検討するための指針を定めております。資料3ページ目に全国的に見ます公共資産の有効活用例をつけさせておりますので、こちらのほうも御参照いただけたらと思います。

今後の公共施設等の総合管理計画推進における公民連携の役割につきましては、非常に重要なものとなってきております。新たな公共施設整備だけでなく、公共施設の管理、運営や遊休資産の活用においても、公民連携を活用することによりまして地域活性化の実現が高まるものと考えております。

続きまして、2番になります。

平成28年度補正予算（第2号）についてでございます。

こちらのほうですが、02番総務費、総務管理費、財産管理費、公共施設等総合管理計画策定支援業務委託料895万5,000円の減額補正でございます。これは先ほど説明した事業に係るものでありまして、平成28年3月31日専決の5号補正によるものでございます。こちらのほう、地方創生加速化交付金への組み替えに伴う減額でございます。

管財課からは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） もうええんじゃな、ほか。ええんじゃな。

財務部のほうから説明がありました。

何か質問がありましたら。

○副委員長（佐々木雄司君） ちょっと。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○副委員長（佐々木雄司君） 済みません。

まず、2ページの一般社団法人公民連携事業機構さんと協定の締結を予定していただいているという話の中で、こういうノウハウを持っていらっしゃる方が赤磐市の公共財産につきましていろいろアイデアをいただけるというのは非常に素晴らしいことだと思います。どこか立ち話程度でもお話をさせてもらったようなことがあるかと思うんですが、同様のこういうようなノウハウを持っていらっしゃる方というのは全国たくさんいらっしゃって、実績も上げていらっしゃる方もたくさんあります。そういう中で、今回お示しいただいているのは、このよ

うなつながりの中でということで、平成28年1月12日に赤磐市のことをテーマに挙げた講演をする中でいろいろ勉強していただいて学んでいただいているので赤磐市のことをよく知っていただいているから一步ぬきんでてるんですよというような、こういう言い方なんだろうなと思うわけですけども、まあ一步ぬきんでても、その後いろいろなノウハウが十分実力を発揮できないとか、実効性に乏しいようなことをおっしゃられるであるとか、こっから先の話ってわからないわけじゃないですか。このぐらいの一步ぬきんでるだけの話であれば、重要なのはこっから先の話であって、どのように計画していくかって重要なわけですよ。そこのところを見ていただくのであれば、一步それがかなり出てるのであれば、それはしょうがないと思うんですけど、余り出てないんであればもう一回計画の部分でどういう方が本当に好ましいのかというところをA、B、C社並べていただいて、御検討していただくという方法のほうがかえってうちの赤磐市の公共財を考えるとときにいいのではないのかなと思ったりもするんです。決してこれを否定しているわけではないんですけども、これでもいいと思うんですけども、やっぱり何個か並べていただいた中でこれが最適なんだっていうところの部分で何か考えていただくことっていうのはできないかなと思ったりもするんですけども。何かほかにこのようなつながりの中で以外に何かアピールというか、ここが最適なんだっていうところをもうちょっと詳しく御説明いただいたら助かるんですが。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） ちょっと部長待つて。

一緒に質問するんじゃけど、僕の個々の考えじゃけ一般質問するんじゃけど、さっき佐々木副委員長が言われた話じゃねえけど、さっき直原部長とは下で話ししょうたんじゃけど、地域へ関連しておられる方とか地域と一緒に過ごしていかれた、例えばふるさとコーディネーターとかふるさと応援隊とか、ここで1年とか2年、3年赤磐市へ住んでやった人とか、例えばこけおられる方がおられて、今は東京行つとんじゃけどここへおられたとか、家は岡山市にあるんじゃけど赤磐市の市役所に勤めようたんじゃとか、学校の教員をしょうたんじゃとかかなとか、いろいろかかわり合いがある人が、ある団体とかがしたら赤磐市をよくわかって、それからもちろん、そりゃどなたも真剣にしてくれるんじゃけど、そういうことできるんじゃねえかなと、今佐々木さんの質問の中で一緒に思うて、見直せえとかどうこう言うわけじゃねえんじゃけど、そういうコンサルはようけある、そりゃ当然あります。そんなことどうこう言うんじゃねえけど、僕はより密接にしてくれたとこが入るべきじゃねえかなと思よん、何を急いで早う調印せにゃおえんか、急がにゃおえんのんな、何を急ぐんな、何か悪いことをしょんか、またおめえ、これをしたことで百条でもせにゃおえんじゃねえかっていう、そげなことはねえと思うんじゃけど何かあるんかな。それも踏まえて、僕が一人誤解しとんかもしれんのんで、わからんのんでちょっと説明してください。なぜこれをやったときにこういう効果があるんかというのを。

○財務部長（直原 平君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、部長。

○財務部長（直原 平君） まずもって、今回の総務文教委員会にこれを上げさせていただきました公共施設等の管理計画実施に伴いまして、公民の関係の資料につきましては当委員会への報告が少し遅くなりましたこと、まことに申しわけございません。先ほどの佐々木委員、それから委員長の御質問にお答えするということで、資料につけてございませんけれども公民連携事業機構とはということからお話をさせていただきたいと思います。で、資料の配付を許していただけますでしょうか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○財務部長（直原 平君） それでは、お手元のほうに機構の概要ということで資料を配らせていただいております。

先ほどの課長の説明では、今までの経過、経緯、その辺を中心に話をさせていただいたわけでございまして、まずこの公民連携事業機構がどういったものかというところを簡単に御説明させていただきたいと思います。組織名でありますとか所在地ですとか、理事の方、そういったところのことを書いておりますけど、清水理事……。

○委員長（北川勝義君） もう一部くれえ、それ。公民連携の。

○財務部長（直原 平君） 岡崎、木下理事ということでございまして、事業実績のほうもそこにつけております、全国規模で展開をいたしておるところでございます。この3名の代表理事によって運営をされてございまして、何か特徴はということでございまして、この3人は全員内閣府の地方創生推進事業局が認定をいたします地域の活性化に向け意欲的な取り組みを行う地域に対して派遣をいたします地域おこしの専門家ということになってございまして。内閣官房地域活性化の指導的な立場にお三方ございまして、それぞれの方が地域産業、観光交流、まちづくりのエキスパートということでございまして。3人の理事が主体となって法人化をいたしましたのがこの機構でございまして、地方自治体が公民連携の手法により地域の可能性を生かすと、それから人口減少時代に生き残る地域をつくるということで、非常に絶大なサポートが得られるということが一つございまして。それとともに、高度な専門知識を擁するという団体でございまして、市民、職員、その他の知識をここから与えていただくことが十分できるのではないかとともに、引き続きお願いをしたいということでございまして。そういったことから、今回この事業が地方創生加速化交付金の対象にもなると、戦略に合致したということだと思っております。

それで、委員長おっしゃいました、地域のつながり、かかわり、それから密接にということをおっしゃったんですけども、これについてはお三方とも岡山出身の方でもございませぬし、かかわりという面では昨年の研修会で市内を若干見ていただいたということでございまして、一番大きいのが先ほど言いました高度な専門知識を有し、なおかつ内閣府の地方創生推

進事務局が認定をしている方々であるというところが大きいものでございます。

それからもう一つ、以前、川北秀人さんといわれる方をお招きしたことがあったんです。これは協働推進の関係でお招きしたわけですが、この方は人と組織と地球のための国際研究所というところで一人でおやりになっている方ということで、川北先生は専らNPOのマネジメント、そういった支援とか協働の基盤づくりをするほうが専門でございまして、公民連携事業機構の目的である民間主導によるものとは若干業務が異なるということでございました。

私のほうからは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 佐々木さん先ええ。

補助金がもらえるから、専門家じゃけ、国の。いみじくも澤さんが言うたがな。映画製作反対じゃとか、いろいろ建物反対じゃというてやられたが。覚えてねえですか。そのとき何ならと言うたら、私は国でスキー場の開発して大失敗して、だから反対じゃと言うたがな。国の職員がしてそうしょうる、それがええからというていけしやあしやあと言うな、おめえ。もとをしようた人が反対じゃ、間違うてきたというて言われたが。僕の言ようるのは、赤磐市へ関係があつて、例えば、悪いですけど原田さんとか、例えばええ中村さんでも帰られた人がやりよつて、赤磐へ思い出があつてやっちゃうんじゃないというて言うような人があつた、なかなかそういうことは少ねえかもしれん、そりやすぐに当たつてこんかもしれんけど、これをやつて、僕自身が言うたら言い方悪いが、教育長と県知事がむちゃくちゃじゃから備作高校も廃校にしたん、簡単に。歴史があつて、思い出があつて、思い入れもあつたりいろいろなことが、簡単に通学、ただ経済性だけのことであつたらやめなさいというて簡単な話じゃ。今お化け屋敷なつとんと同じじゃ、後活用あるかもしれんけど。それが、地元では学校も行けれん、自転車1台あつたら備作高校まで行ける低所得の方が、人数が多いとか少ねえということで潰されていって、思い出がねえからじゃねえか。やっぱり思い出があるようなところでしてもらわなんだからいけんじゃねえ、そういう意味で言よん。この人らが決して、今言ようる清水さんとか岡崎さん、木下さんが決して悪いとかやこう言ようりやあしません。国も悪いとも言ようらん。それから、澤さんの言うたけど、澤さんも反省点で言われたというこつちやからな。こういう反省もあつたという、自分で総括して彼が言われた。これも一つのこと。

それで、出た人がほんなら全部ええんじゃ、何か言うたら、交付金の対象になつたけんというて簡単に補助金をもろうたけんできるんじゃ、そうじゃのうて、いかに民間の活用をして、調べて、公共の有効のどこを利用してどのようなことをやつていくか、まちづくりやつてくとか、いろいろひよつとこれをやつたために山陽団地が活性化できて、あそこへ店ができるかもしれん、そういうことをしてくれるんじやつたらええけど、何も目的がのうてこれがあつてこれじゃあというて言うんじゃ納得できませんよと。

それで、まして今話でいうたら6月2日に調印するというて。なぜ6月2日なん。この間の説明のときにゃあ、僕はもうざつくばらん話、議長にはよう説明しとりますというて、議長

に電話したら議長は1日前に聞いただけじゃというて言うた。それは本当は6日じゃった、違
うとるけど、議長の説明も違うたけど、議長にだけ説明してあるんなら議長としてもらえ、総
務文教委員会知らなんだ、一切、総務委員長も。別に直原平さんじゃとか友實さんの市政怒っ
て反対して言よんじゃねえ。やることはええことはやりゃあええと思うとる。じゃけど、担当
委員長が知らなんだとか、議長は知った言うけど、そねえな話じゃねえ、情けねえ話じゃ
から。そりゃ議長と進めてやってもらえということ。これが悪いとかええとか言よんじゃねえ
んじゃ、もう。

それから、悪いけどこのぐれえな者何ぼとごろごろおる。学校で学校の中直してこいと言う
たらそういうもんは専門家がおるんじゃ、どっこも。何とか評論家、専門家というのはくそぐ
れえおるんじゃけえ、課長より多いぐれえおるんじゃけん、何ぼとおる。もし市長、直原部長
が言うた話、これええげにいつて、つまずいて思い出のあるとこ、例えば思い出のあるとこ皆
これやめえと、費用対効果でいけんけえやめえというてやったら、皆さんがそりゃよかったと
言やあええけど、おえなんだ場合責任誰がとるんな、これ。それで、交付税がついたら、そう
慌ててぼっけえいかにゃおえんのんかな、それ。これは今度のとき聞かせてもらうけど、単な
る助言、専門家の派遣の中間支援じゃのうて、計画から一貫してやるんじゃ長期にというて、
そりゃ成功したとか失敗したとか、ここがやったの全部成功か。失敗もあろうがな、ようけ
え。成功のこと挙げてええことばあ言うて、メリットは何ぼとあらあ、デメリットもあつたん
じゃねえんか。ちょっと今そう思うてな。これやるならこのとこもうちょいな、ほかにはも
う一切ねかったんか、これしか、ここをやるとこは。さっきのもう一人のとこ何言われたか
な、何とか言われたが。そこもあつたと言うけど、それでもええ。まあ議長帰ってきて。議長
だけが知ったというの、議長ね、議長とやってくれえよ。わしはそこを言いてえんじゃけ
え。

○委員（下山哲司君） 委員長、ええ。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） これ今見せてもろうたら、単なる助言、専門家派遣などの中間支援で
はなく、計画から運営までを一貫、赤磐中をやるん、1つの事業をやるん、何かようかわから
ん、内容が。何かこれをやるという……。

○委員長（北川勝義君） これをしたら、おめえ、リピート吉井やこうようなるで、運営して
もらやあ。

○委員（下山哲司君） その辺がちょっと理解できん。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

ちょっと待つて。ええで平、入るぐれえ。

直原部長。

○財務部長（直原 平君） どうしてここかということもございますけれども、来年だけでこ

の事業が終わるものではございません。まずは勉強を、職員の方、市民の方、議員さんも含めまして取り組んでいただきまして、ステップ2、ステップ3に進んでいただく。将来的には赤磐市の公民連携まちづくり、これは案ということですけど、推進委員会というものを立ち上げまして、そこには先ほど委員長がおっしゃいました地元の関連のまちづくり会社でありますとか、NPO法人、不動産のオーナーでありますとか、そういった方も入っていただく、それに公民連携事業機構などの専門機関、それから岡山大学、環太平洋大学の学術機関、それから金融機関等もこの組織に入っていただきまして、お互いに連携を進めていくというのが今後のやり方ということで考えております。ですから、平成28年度につきましては、一般社団法人公民連携事業機構によります勉強会のほうを主に開いていただきまして、お互いが共通した理解を……。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、29年、30年もここがするんじゃろ、また。やるんじゃろ。28年だけじゃない、29年、まあ早い話が……。

○財務部長（直原 平君） 内容は別ですけど……。

○委員長（北川勝義君） 違う、早い話が債務負担行為と同じじゃろ。

○財務部長（直原 平君） いや、債務負担……。

○委員長（北川勝義君） 単年で。

○財務部長（直原 平君） 単年……。

○委員長（北川勝義君） 違うが、債務負担行為という言葉のことを言ようるわけ。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） ここでしても3年間同じ者がするんじゃろうということを言よんじやがな。

○財務部長（直原 平君） ですからかかわっていただくようになると思います。

○委員長（北川勝義君） じゃったら同じじゃ、負担行為じゃがな、同じこっちゃねえか。ゼロ国と一緒にじゃねえか。

市長、違やすまあ、考え方が。違うかな、そりゃ、言ようることが。

○副委員長（佐々木雄司君） 建物にはやっぱり歴史と思いがあるからな。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（下山哲司君） まだ終わってねえんじや。

○委員（松田 勲君） 終わってねん。

○委員長（北川勝義君） 答えを聞きよんじや。

平君な、今何が言いてえというたら、市長言よんのは、これが悪いことじゃねえ、28年度だけ、平君、部長が勉強するのはええ、そりゃあまあこうやってやるというんで。それで、わしがあえて議長の名前を出したんも、議長にゃあ相談しとるというて、議長はというて、違くて、議長だけ知っとんなら議長とやってもええというこって。こんなことで僕は思い出がある

から、例えば吉井のこと言うたら、リピート吉井要らんけんやめえとか、是里ワインは生産性入りょうらんけんやめてしまえとか、そんな話を簡単に知らん者が行ってぺらぺらぺらぺらしゃべられたら、僕はきのううれしかったのは、四国の人が是里ワイナリーへ行ってえんじゃけどどうやって言うてきて、通り過ぎとると言うたら、バックして戻っていかれえとていうて鳥の巣からずっと戻るまでコース言うてあげて戻っていかれた、夫婦がな、ワイン買って帰ると言うて。やっぱりそういう人も来らりょうる、あるわけじゃあ。ええか悪いか、この自然がええなと言われて昼御飯食べていかれたんじゃけど、みんな簡単におえんけえやめえ、費用対効果でやめてしまえと言うけど、わからんもんと言うたら、ほかもあつたんじゃつたら。どうして6月2日にやらにやおえん。ほかの予算やこうついで当初予算がついとる、まだ動きょうらん予算がぎょうさんあるのに、これについてはこの間ついたらすぐいかにやおえんというて、何かあるんかな。それで、次の年はここがまた来てする、その次の年もするんじゃつたら、債務負担行為と一緒にじゃがな。それまあ議長だけ知つとるとするのは、議長にも聞かにやおえんと思う。議長にわしゃ答えてもらおうと思うてねえから、直原君に、部長にどういことなると言うて、これからはおめえ総務文教委員会のほうが議長とだけやるんなら、これから議長とやってくれ。わしゃそう今思うたんじゃ。何でこの6月の調印はそねん早うして、ここじゃねえとおえんのんならということ聞いてえんじゃ。ほかにやねえんかというて、全然。さっきはいみじくもあつたが、1個あるというて。

はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 先ほど部長のほうから説明のほうがありましたように、内容につきましては非常に高度な、なおかつ先駆的なものとなっております。昨年度、ほかの民間のコンサルタント数社に、こちらの思っている内容について仕事ができるかどうか、数社問い合わせてみました。で、返答のほうは、そのレベルの内容のことは難しいという返答をいただいております。

○委員長（北川勝義君） もうええ、もうええ、わかった、その話は。そういうふうに持っていきょうたらいけん。ほんなら……。

ちょっと待って。

その前に、これをやったときじゃな、ほかのときに、施設の見直しをかけるときにほかのを入れたり、見直しじゃな、活用とか、全く一緒じゃねえか。そのときかけてやりやあえかつたじゃねえか、ここを。いや、言ようることおかしいか。

○委員（下山哲司君） それとは違うんじゃろ、こりゃあ。

○委員長（北川勝義君） 違やあへん、利活用じゃけえまちづくりもみんな一緒のことや、もとの。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） まあ確かに今までの施設の見直しのときに、ここの公民連携事業機構を利用すればどうだったかということもあろうかと思えます。

○委員長（北川勝義君） 悪いことはねんか。皆えかったんか、やって今まで。皆ええことばあじゃったんか。悪いことあったんじゃねえか。

○財務部長（直原 平君） いや、失敗例我々ちょっと聞いてないんで。

○委員長（北川勝義君） 失敗例聞かせ言よんじゃがな。

○財務部長（直原 平君） 成功例の大きなところをここへ挙げさせていただいておるわけございまして。

○委員長（北川勝義君） わからん、まだこれただけじゃけ、書いとる、こういうこと計画ただけじゃけえ。

○財務部長（直原 平君） 失敗例というのはちょっと聞いてないんで具体的には申し上げられないんですけれども、今回昨年……。

○委員長（北川勝義君） 例えば、部長もうええ、余り言ようたら。市長、極端な話、赤磐も絡んで吉井でというたら、是里ワイナリーつくったときやいろいろな方へブドウとかワインの醸造発酵、加工、販売、いろいろなことで、今九州のほうの先生にお世話になって九大も行ったたりいろいろやって、ずっとやって、今はちょっと衰退しとるけど、是里ワインもようになって一時期はしのぐようなことあったんですよ。そうやってきて、そういう関係のところじゃとか機関もあるんじゃ、そういうところができることは。ただ、せえで知らんから自分らこれできんじゃ、ここができんじゃ言うだけで、僕はたしか奥田局長が部長のときにワインじゃとか甘酒でするんならそういうなもん勉強してくれえというて言うたことあったな、奥田局長な。市長にもたしか言うたはずじゃ、そうじゃな。まあそりゃあええけど、そりゃあんたらが国の何とかじゃというて国の補助金持って国のもんがええというてやるんじゃ、そりゃやってもらやあええが。せえで、まあ僕は行ったことはねえんじゃけど、釜石の復興まちづくりブートキャンプ開催というて、ええようにできたんかな。ええようにできて何かやりよんかな。ようわからん。北九州ぐれえはわしゃ聞き行っちゃる、イノベーション、できとんかな、こりゃ今。計画しとるだけじゃろ。いつの事業、これ。3年ほど前というて、今ばりばりやりよん。どっかまあ言うたら、赤磐でやってくれたら、赤磐が山陽団地のときもうスーパーが撤退しておらん、買い物難民が出て、5年後じゃってやってくれて、あそこはスーパーで買い物難民おらんようになった、だっだっだようになったというのがどっかあるんか。

直原部長。

○財務部長（直原 平君） 施設でのこういったことができましたというか、ここがかんで成功例というのは、資料の3ページにおつけしておる1から3まで。特に、(3)のオガールプロジェクト、岩手県の紫波町につきましては、そこに書いておりますように町の遊休地でありました10.7ヘクタールに年間80万人を超える来場者が来場するようになったという成功例等の施

設、これは3ページに載せてございます。

それから、別紙に配りました資料、事業実績につきましては、ここの事業機構がこういった形で……。

○委員長（北川勝義君） したんじゃから、施設をしたんじゃろうが、こうやってしてあいとるところに。そりゃあ瀬戸内市やこうと同じじゃがな。瀬戸内市にな……。

○委員（松田 勲君） 委員長、ええかな。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って、もう終わるけえ。

瀬戸内市のように太陽光でやるとかというたら、物すげえあらあ、そういうような事業。何があったんな、建物を建ったり。

松田さん。

○委員（松田 勲君） はい、済みません。

○委員長（北川勝義君） どうしてもやりたきゃやれ、責任とりゃええんじゃ。

○委員（松田 勲君） 委員長あれなんですけど、僕は3月議会でちょっとしゃべっとなんですけど、清水さんの、この1月12日にあそこの研修があったときに参加させてもらった一人なんですけど、正直目からうろこが落ちるようないろんな話がありました。事例もありました。さっき載ってる3ページの一番下の岩手県の紫波町の話もされましたし、実際光成委員も行ってると思うんですけど、僕はすごい刺激を受けた一人だと思う。委員長の言われることもわかるんで、ただ、正直いきなり6月2日に締結というのはいかがなもんかなというのがあります。その前の地ならしができてないんじゃないかなというのを感じます。でも、実際いろんな過程の中でこのグループになったというのは、それは僕はいいと思うんですけど、さっき言われた説明の中にもそういった地域の教育会みたいなのを開いて参加させて一緒にまちづくりをやっていく、地方創生の今の国の流れの中での一つだと私は思うんです。だから、僕はこれやるべきだと思うんですけど、ただ何で6月2日なのかというのがちょっと。いきなりここへ来て議会が始まる前にやるというのはいかがなもんかなと思うんですけど、その辺をもう一回きちっとしていただければ。中身は僕ははっきり言っていいと思います。

○委員長（北川勝義君） 松田さんな、僕は松田さんと個人、相対やる気持ちはねえんじゃけど、何を言ようというて、そりゃ松田さん見てこられたから、見てこられたのええとか悪いとかじゃねえ、成功例ありゃ失敗例もあるし、いろんなんがあつてきょう。それで、国の職員で補助金がもらえるけんええじゃとかということも納得いきょうらんわけよ。補助金もらえんでもやらにゃあおえんことはやらにゃあおえんし、直売所の一つもできてねえのに、何もできんのに、こんなことを言うて、国からもろうたけん金だけ捨ててくること、どぶに捨てるんと同じじゃが。日本初のバレーボールの専用体育館をせえというて、できりゃあへんがな。サッカー場もできん、何もできん、市民ホールもねえとか、ねえねえ尽くしじゃ、何もようやらん者がそう簡単にできるわけねえがな。今のある施設を活用していくというのはなかなかできに

きいがない、まちづくりしていくというても。まちづくり、ちょっと待ってください。それを言うわけじゃ、そりゃ公園の活用例とか例があつて、こんなもん東京の町の真ん中じゃつたら何ぼというて来らあや、ほつてえても、岡山市内じゃつたら来てもらわんでも。何でここを決めるんなら、それで6月2日に調印すると。せえで議長に説明しとりますからというて、連休明けというた。議長には怒つて電話した。あんたらが研修行つとつたときじゃ、東京へ。なあ、光成さん。行つとつたときじゃ、研修へ。5月に研修この間行つとつたときじゃ。そのときに僕はここで、佐々木さんおつたわな、目の前へ、電話したもんな。確認とつたら、議長は後から電話くれた、6月の話をしたときの説明を受けたときが12日じゃけん、11日じゃつた議長が言われた。しかし、もう一遍調べたら6日じゃつた。まあ別にそのことはええんじゃ。もう直原君、今後は議長と2人でせえと言うたがな。総務は聞かんのに、そんな話を勝手にだあだあだあ聞かれて、2日に調印するというて。松田さん見てきたからというて、我々は和で見たけんて、和でもそんなことは関係ねえんじゃ、いけんのんじゃ。総務に説明してなかつたらこりゃあ。総務が知らずにやつて、2日に調印するということは、この事業が悪いとは言ようらん、事業成功例じゃけん。成功だけじゃない、デメリットもあろうが。メリットだけじゃねえ、デメリットもあろうがなというて言よんじゃ。メリットだけじゃつたら言うてみいというんじゃ、デメリットあらあや。

それから、今言よんのは、ここへ携わつてきた人の本当に農業振興で皆やりようる、そういう人やこうも入れていくのを一つありませんというて、こねえなこういう一般社団法人だとか、こういうことの公民連携これだけのことだけ探しゃあ、こことそこしかねえというて言わあや、おめえ。そんなもんどこでもあらあや、おめえ。もうごじゃというて言うたの、そりゃどうしてもここをしてえけえ。ことしはこういう勉強会だけでしてえとか、目にうろこというて、松田さん、5年後に聞いてもろうてくれえ、目にうろこじゃねえ、目が真っ赤じゃつてみ、どうすんな、おめえ。じゃあその責任はとれるんかというて、説明もせな。じゃから、また同じようなこんなことを簡単にやつてしまよつて、軽う、それもまして議長とだけ相談、議長が知つとるやこうというて言うんじゃつたら議長にしてもらえと。議長悪いけど、議長が悪いとか言うんじゃのうてそういう話。せえで、やつてもらうんじゃつたらなつたときに責任をどのようにとつていくんな。これは誰かさつき言うた、百条じゃねえけど、百条はせんかもしれん、そう簡単にするべきじゃねえけどそういうことも起き得るといふて疑心暗鬼になつてくるといふことがあるんじゃねえかということと言よんじゃがな。簡単におめえ。石井知事が岡山県立備作高等学校を卒業して孫でも来ようたり、皆そけえおられたら、備作高校ものうなつとらん。後で削除してくれりゃええが、・・・の息子が、孫が行きようたらならん。吉井町の是里おつて、是里からおりてきて自転車行つてありゃあ行けるて、やりようたらなつとらん。何でもかんでも東大じゃというんなら、これから皆、市長、職員かわつてもろうて東大から来てもらえ。やっぱりこれは考えにやおえんのじゃ。それから簡単に、わしが一番怒りよう

るのは議長に相談しとりますからと、そねえなことで怒りょんだけじゃねえんじゃ、それだけじゃ。6月2日というて、この6月議会があるのに、でええ4月議会のときでも説明しとった、それで5月議会でやったというんじやったら下山さん、皆さんええと思うんよ。わからんのを6月2日にやります、いけしゃあしゃあと調印式すりゃあええがな、6月2日じゃなかったらこれがおえんというんじやったら。全く「種まく旅人」のパターンと似たようなパターンになってしまいうるじゃねえか。「種まく旅人」やこう悪いこっちゃねえ、ええことじやったらええことじゃ。反対して百条した人も悪いと思うとりゃへん、経過がわからんけんというていろいろ思うとる気持ちもあるが。そりゃあ僕は赤磐市がよくなることやれ、これもやりゃあええと思うとる。ここだけじゃのうてほかもあつたんじゃねえかというのが一つあるんと、もっと調べてほしいということ。提案させてもろうてもええが、どっかありませんかというて、それも一つの方法じゃねえかと思うんじや。それとも、国の交付金はこの業者じゃねえといけんと言うとんか。それや、こうやったけど、こういう悪いところもちょっとあつたんじやというのもやって、せめて最低限は6月の議会が終わってからでもしてもらいてかったというのを、中間でもいいんよ、ちょっと思ふた。僕はそれを思ふたわけ。それについてどういう考えか教えてくださいませよ、市長どういう考え。直原平君は、平君も、全責任持つんか、直原部長。

○財務部長（直原 平君） 済みません、1点だけ。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） この事業でございますが、委員長おっしゃるとおりでございますが、平成28年度の当初予算のほうに公共施設等総合管理計画事業ということでのせさせていただきますておりました。それを加速化交付金のほうに振りかえさせていただいたということで、当初予算にのっていたということで事業を4月から進めさせていただくというところから、委員長おっしゃるように6月2日というところにいったわけでございますて、先ほど私も言いましたように、4月の時点の委員会でおっしゃられるように公民連携関係の資料をおつけして説明するのが本来でありましたけれども……。

○委員長（北川勝義君） もうええ、もうええ、もうええ。もうわかった。あんな、悪いけどな、3月議会はそねえなことをやりようるときじやのうて、百条委員会のあれ出した発議でそういうことばあが一生懸命だったんじや、こんなことより。おめえふざけたことを余りなあ、直原君なあ、4月から事業予算ついたらけんいくんじや言うんなら、ほかの予算もやっときゃええじゃねえか。ほかの仕事はせずにこのことだけなぜ先走るんならというて言いたい。もうそれ以上よろしい、あんたらがそれやりたきゃやりんせえ、あんたらの責務持つて。

下山委員。

○委員（下山哲司君） お聞きする中で一番大事なことは、やっぱし同じ失敗を繰り返さんように。まちのあり方を検討する、やっぱし議員には契約をする前にきちっと説明すべき。これが1つの事業をするのを頼むんならええですよ。だけど、今聞きようたら、さっき言うたよう

に、何をしてもらおうかというのがまずわからん、これ。じゃから、大きく考えればまちづくりの提案をしてもらおう、下のほう見よったら事業もする、計画から運営までを一貫して長期にわたり。こういう重要なことをしてもらおうなら、議会にきちんと説明して理解がもらえるような状況の中で契約せにゃいけんので、映画のときでも一緒。内容がわからんままの契約というのはだめじゃということだけしか僕は言うてなかったと思う、総務委員会では。じゃから、それきちっとしてもらえなんたら賛成できん。同じことをまた繰り返さんようにしてもらわにゃあいけんと思うん。じゃから、赤磐市のためにやろうと思うんなら、それはええことなんじゃからやっていただきゃええんじゃけど、一つ残念なのは、僕も長年行政携わってきたんじゃけど、町のトップになった人がこれはやるんじゃというのが、1期と言わずに毎年の人もおったが、1期の人がこれをやるんじゃと言うて手を挙げてやったら、それは必ず成功する。そういう信念でやっていただければ赤磐市は毎年やればよくなるんで。人に頼んで、赤磐市のことがわからん、北川委員長が言うようにわからん人に委ねるのが正しいんか、それとも赤磐市のトップになった市長がここはこうするんじゃ、ここはこうするんじゃというプランをつくる手伝いをしてもらうならええと思う。じゃけど、全部委ねてしまうというのは、何かこの文章見たら間違いがあるんじゃねえかなと。委員長が言うように、失敗したときに誰が責任とるんなどという話になるんじゃと思う。じゃから、TSUTAYAのあれみたいに図書館一つするとか、それで人集めだけすとかというんならいいんです。じゃけど、まちづくりをするのは市長の仕事じゃろ。人に委ねるもんじゃあないというふうに僕は思うんで、その辺の回答をひとつください。

○副委員長（佐々木雄司君） ちよっと……。

○委員長（北川勝義君） ちよっと関連。

○副委員長（佐々木雄司君） 確認ですけど。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○副委員長（佐々木雄司君） ちよっと確認なんですけど、今全て委ねるといようなお尋ねした、丸投げして言われるまま進めるという話じゃなくて、赤磐市としてこうしてくださいといふことは提案に対して言うわけでしょ。全て委ねて、そのとおりにやりますよっちゅう話じゃないでしょ、この話というのは。そうでしょ。で、いいんですよ、それで。ちよっと確認なんですけど。

○委員長（北川勝義君） 提案と計画じゃがな。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 直原。

○財務部長（直原 平君） 佐々木委員今おっしゃったんですけれども、全くこの機構に丸投げをしてしまうということでは全くございません。ですから、平成28年度につきましては、皆さんに、先ほど私が言いました、これ仮称になりますけれども連携のまちづくり推進委員会と

いうものを立ち上げる前の基礎知識を習得していただくということでこの機構と協定を結びまして職員の研修、それから市民を対象とした講習会、そういったものを展開していただくというのが今回の契約の内容でございます。で、その後に推進委員会ができ、それからここには書いてないですけどPPPのエージェント会社を設立したり、そういったところに発展していけば一番ベストなんですけれども、これはあくまで今後の我々の取り組み次第、そういった形になってこようかと思っております。

○委員長（北川勝義君） 違う、直原君、そねえなことはええから、何で6月2日するかという、議長にそれ説明してくれ、それを聞きよんじゃがな。下山さんも6月早過ぎる。皆そけえ松田さんもちよっと見てこうと、何で6月2日なということと言よん。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今言うたのは、じゃから説明をきちんとしてもろうて、6月2日にどうしてもせにゃいけん理由や、それから内容をきちつと言うて、ああそりゃあそうじゃ、そうせにゃいけんなというようにしてほしいって言ようだけで、いけんとか言ようるんじゃなしに、理解ができるように……。

○委員長（北川勝義君） いけんわ。いけん、わしは。おめえ議長とだけするんなら議長にしてみらやええが。

○委員（下山哲司君） 議員が一人聞かれてわからんのじゃというような事業を進められたら困るんよ。

○委員（松田 勲君） いい。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） 済いません。

根回しの話もあるんだと思うんですけど、聞きたいのは、この写真出されてるけど、これ直原さんが行って撮られた写真ですか。

○委員長（北川勝義君） 違わあ、向こうが持ってきたんじゃ、何しに行こうで。現場を見たことねえ。

○委員（松田 勲君） いや、だから、直原さんに対して、説明をされようけど行かれたんですか。

○委員長（北川勝義君） 現場を見たことねえ、行ったことはねえ。

○委員（松田 勲君） だから、締結するんなら普通民間だったら、何か購入するとか何かするというなら必ず見に行きますよ。大きなものをやる、事業するんだったら。現場を見ないで、話はすごいよかったと思うし、これは絶対やるべきだとか思うんですけど、ただその上にやっぱり現場を見て、議長なんかは行かれとるけど、そういった中で言えばもっと説得力があると思うんですけど、机上だけの話でしたら、それで締結というのは僕は怖いと思うんで

す。さっき言われたリスクも何もわからない状態でやるのかと。締結したらもう終わりですから、そのままやってもらわにゃあいけんのんですけど。僕は問題ないと思うけど、少なくとも事案がいっぱいあの先生言われた中にはあるわけですよ。その中に、直原さんを初め誰か現場行って見られたんですか。その話を教えてください。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 部長。

○財務部長（直原 平君） 私は4月からということで、現場、この写真のあるところはいずれも行ってはおりません。しかしながら、管財課の職員につきましては、昨年岩手県の紫波町のほうにも出向いてっておりますし、それから東京の3ページの1番、こういったところにも一応この5月でしたか行かしていただいて現場は見てきております。

○委員長（北川勝義君） ちょっと松田委員、もう反対宣言したからすりゃあええから。じゃけどな、6月2日にするというのが調印で議長に言うてる、そねえなことや、それから行ってねえというて、行くんじゃったの我々行ったの知りもせんのか。これだけの赤磐の3年間とか5年間の大きなことをやらにゃあおえんわけじゃろうがな。軽う考えてから、おめえ、独断だけで軽う言うておめえ、所属の委員長も副委員長も話は知りませんというて、当初に上げとったけんえかろうが、これからそうせえ、皆。執行権介入しようらんからやりゃあええから、議長とやってくれりゃあええから、おめえ。余りにもな、これがほんならなってから、岡山農業公園、ドイツの森は何なら。できたときはむちゃくちゃ忙しかった、1日500万円売り上げたという、ワインだけでも。それだけでえれかったよ、トイレ行く暇もねえというて。今はどねんなんなら。世の中流れさびて、これやったからというて3年後や2年後はどうなっとんな。その責任とれるかというたら、何でもかんでもいく。簡単にやるのが悪い言ようりゃへん、簡単にやらぬもうちょっと考えてやってもらわにゃあおえんのんじゃが。赤磐市全部でもすぐ公共下水つけちやるのが一番ええわや、みんなきれいになって。お金がなかったり、補助金がねえからできなんだりするんじゃろう。さっき言うた、間違うとるかどうか説明もしてくれなんでどうなっとるのわからんで、今度はPPPもしますんですかというて、何なあPPPというて、公民連携で言うてみい説明を詳しゅう。何でもかんでも知ったかぶりを、おめえはふざけとる、市長。これが市長のやり方か。単なる、こんなことするんじゃったら、リピート吉井が途中半端になっとる、あんなことから片をつけてこいや、おめえ。できたらへんじゃねえか、おめえ。中途半端なことばあしてから、おめえ。せえで、最低限でこんだけのことを向こう3年間、5年間とか担うてやるんじゃったら、悪いですが大変申しわけねえですが日帰りでもよろしいから議員さん一遍見に行ってくださいぐれえあってもええんじゃねえんか。資料もこげなもんじゃのうて。国から金をもろうたんじゃけやるんじゃけえかろう、文句言うなというんなら文句言わんで。これはちょっとおかしい。

せえで、何で6月2日の教えてくれにゃあ。6月2日はどうしてもせにゃあおえんのんじゃと、

6月2日にしてくれにゃあもうだめなんじゃけえというて、映画みたいにあったのどねえなんなら、何でなら。この業者じゃないとおえん、これじゃあ。どこかへ選別でどういうところも来てくれというて全国へ公募して、インターネットもあるんじゃけえ出してみたらええんじゃねえんか。出したらこういうところ、ほかのところも来てえというもんがあったらそれでやってもらやあええんじゃねえんか。ここじゃねえといけんのんか、何でなら。消防車買うときや救急車買う、2社しかねえという、トヨタと日産しかねえというたらしゃあねえけど、どこならおめえ。何でここなら。けちをつけよんじゃねえ、知りもせんから僕は言よんのに。何でな、何で6月2日でここじゃねえとおえんのんか。担当委員会知らんでも議長だけでできりゃええんじやったらしてくれえ。その3つ教えて、それ。責めよんじゃねえんで、市長答えてくたせえよ。

○委員（実盛祥五君） ええ。

○委員長（北川勝義君） ようねえ、答えてくれえ言よんじゃ、市長に。

○委員（下山哲司君） いやいや、まだ終わってねえ、わしが聞いとるの。

○委員長（北川勝義君） ずっと待ちよんじゃが、それを。

○委員（下山哲司君） 委員長、多く言うてもあれなんじゃから、じゃからしっかりせにゃあいけんのんと、それから簡単にな、計画案を支援してもらうのに頼むんが要るんならそりゃもうそれでええ。その辺だけはっきりしてもろうて。

○委員長（北川勝義君） 僕の言うたこと答えてくれえっちゃ。

市長、どねんなんですかな。

市長が答えれんのやったら平は手を挙げようおめえ。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） さまざまな御意見ございました。公民連携というよりも、話のもとからを少し補足させてもらいます。この公共施設等の総合管理計画、これを昨年度策定する中で、やはり総合計画をつくっていく経緯については皆さんも御存じのとおりですけれども、公共施設が合併によってたくさんございます。どんどんこれが老朽化していく、これをどういうふうに管理していくかという大きな問題に直面して、これについていろんな検討を加えてきたところでございます。その中で、今後この公共施設等を適切に管理していく中には民間の活力をも活用していかないといけないと。公共主体で管理できるもんばかりではない。そういったことで、有効に活用することを目指さないといけない。こういったことが浮き彫りになってきました。その中で、公民連携事業機構というのが我々のアドバイザーとしていろんな意見をいただいた次第でございます。この中で、こういった公民連携をしながら公共施設を適切に管理、あるいは事業の継続をしていってるものを御指導もいただき、御提案もいただいてきたところでございます。

この中で最も私自身が共感したのものの中には一つに人材育成、こういったものが重要なプログラムとして組み込まれているというのが1つございます。この機構によって人材を育成することは、これからの公共施設を維持管理するだけでなく、この少子・高齢化に向かっての赤磐市を継続していくためにも、こういった考えのもとに人材を育成していくことも大きな課題だと考えております。

そういった中で、公民連携事業機構のほうとタイアップをしまして、赤磐市の公共施設をどう考えていくか、あるいはこれから公民連携をして維持管理をしていく施設をどうアプローチしていくか、こういったことをアドバイスをいただきながら、あくまでも公共施設等を維持管理、あるいは公民連携していくのを主体的にやるのは機構ではなくて赤磐市でございます。赤磐市の最終責任者は私市長でございます。そういったことで、私の責任のもとでこれから公民連携事業機構にアドバイスをいただきながら、またノウハウをおかりしながら人材の育成をあわせて行っていく、このために機構との連携協定を行うというものでございます。確かに、この協定を6月2日にというのが、今までに事前に調整等ができていなかったということは大きな反省材料であろうかと思えます。しかしながら、さまざまな機関がある中で、人材育成までを念頭に置いた提言ができる、助言ができる組織というのはここしか考えられないということで、私どもは公民連携機構とタイアップをしていきたいと、こういうふうに思っている次第でございます。急に唐突にというのであれば、これから当日までに丁寧に御説明をさせていただきながら、できることなら予定どおりに協定締結式が開催できればと思っておりますので、御理解のほうをよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って、ちょっと待って。

ようわからんけど、釜石市のほうで災害で来て、東日本大震災で来て、ジェットスキー買ったり潜ったり、だっだっだっだっしてから大金使うてアルマーニの服着てしようたんがおえんようになったんがあるが。

○委員（下山哲司君） 北海道の。

○委員長（北川勝義君） 北海道な、来てな。それが来たときどう言うたんな、こんだけすばらしいもんはねえというてやったじゃねえか。そのとき誰がどうするんか知らん、責任は市長じゃと言うたけど。そんなものは簡単に市長、私がとる、最高責任者、そんな話じゃねえんじや。僕らにもっと説明してくれなんだからだめじゃねえかという話をしょうるわけ。そりやもうどうしてもそれやらにゃあいけんというてやるんじやけ、やりやあよろしい。もうこれからはそうしてもらやあええ、これ何でも。僕は反対しょうるわけでもねえし、やっぱり考えるんじやったら目標を何か持って、どれにするじゃとか、いうたら山陽団地の活性化を図るんじやとか、もとにするとか、何とかして吉井の過疎はどないするんじやとか、脱却していくんじやと

か何かがないけりゃ、何にもねえような感じでばばばばっと言われて、立て板に水ぐれえでそれができる、これがええと思うとん、人材してくれる、ほんなら赤磐市や岡山県にはこねんなこと、人材教育してくれるところはねえんかな。今自治大学やこどうなるんな、中央に研修行きようたんは、あれ皆、税務の研修じゃ、職員の職員研修しょんのは要らなんだんか、ありゃあ。あれむちゃくちゃか。ここに研修にも、やっぱり僕はこんなこっちのけちばあつけよんかもしれんけど、僕がけちをつきようるといって言われるんかもしれんけど、僕は転ばぬ先のつえじゃけえ、もうちょっと説明してもらおうたほうがええんじゃねえん。それから今、6月2日にどうしてもやらにゃあおえん、何で6月2日というのもまだ答えもろうてねえ、そのことはな。何でかわからんけど、ようわからん。今、下山さん、6月2日の答え出たか。僕わからんけえちょっと聞きてかったんじゃけど。それを言いたかったんで、最後もう終わる、やりたけりゃやってくだせえよ。何かもうようわけがわからんようになり出した、あんたら、どこを急ぎようんか、何をしょんか。下山さんあと言ってください。

はい、下山さん。

○委員（下山哲司君） 市長がアドバイスをもらうということが基本じゃと言うんじゃから、それはもうそれでもらえるんならええと思うんじゃけど。一つ、この社団法人のファイルぐれえはあるんじゃろうから、財団のな、それぐらいはきょう出しときゃよかったな。そうすればまた一つきちんと説明したことになるんで、やっぱり後から出すんじゃなしに先に、やるべきことは先にやってみんなに理解してもらおうように努めにゃおえんわ。それが義務じゃけえな。その辺は市長も任してやらしょうて、してくれなんたら職員が悪いと言うちゃあおえんで、そりゃ市長の指導が悪いんじゃから。その辺を、議会というもんがどういふもんかというのを理解してもらえなんたらこれも情けない話なんで、そういうふうの説明して、必要なもんなら契約してもらやあええと思うんよ。説明だけしてもらおうように。まあきょうはよろしいよ。じゃから6月2日までに説明だけしてもらおうて。それで委員長、よろしいでしょう。

○委員長（北川勝義君） いや、わしはもうよろしい、もう。虫が切れた。

はい、実盛さん。

○委員（実盛祥五君） これは赤磐市民の中で何か力を持つとる人がいなかったんかな。よそばあへお願いするんじゃなしに。歴史を知った人にやってもらったほうがいいんじゃないかと思う。

○委員長（北川勝義君） ほんま百条と一緒に。

○委員（下山哲司君） 判断は市長がすると言よんじゃけん、きょうのとはええがな、もう。

○委員（実盛祥五君） それから、やっぱり学生やこうも入れたって、若い者の意見も聞いたらにゃいけんと思うよ。年配ばあがばっばっばっ将来決めるんじゃなしに、若者も入れたって、赤磐市の歴史を知った人がやっぱり先頭でいかんとええことならんと思うな、僕は。

○委員長（北川勝義君） あの名、ちょっと要らんことを言うけえ、昔のことで思い出したのがあるんじゃけど、今成功してやっとなるのは宮城県の仙台市のバッハ音楽ドーム、コンサートして世界でやってきて、最後は町長から県知事になって逮捕されたけど、しとる。それから、讃岐のこんびら歌舞伎、この間出たこんびら歌舞伎、それから赤磐で岡山出た吉井の是里ワイナリーと知らん皆、そのこと。そねえなんを提案したのは岡大の・・・教授がしたんじゃ、農水省のときに。今は名前はあえて出した、削除してください。トマさんという課長だけど、トマさんという方こういうアイデアようけえ持つとる、していくな、やれえと言うたら。高齢じゃからようせんけどな。やっぱりできるんじゃ、ようけおるといふん。それから、さっき言うたワインのこと、ワインの力入れて、立ち上げから永久免許もろうて、九大の久米先生とかやっぱりおるんじゃ、そういう人が。そういう人も利用せにゃあいけん。何でもあんたら、これな、合併して何でも山陽方式じゃあ。ロッカーは皆あけえというて戸を取れとか。何でも山陽、ええとこは山陽で見習え。ええとこは吉井の見習うとかそうやってやっていくべきじゃねえんかな。もうこんなことをやりようたらええことならんよ。何でせえでわしゃ6月2日のことはようわからんのんじゃけど、議長と相談してあるいうて6月2日、わしようわからん、執行権なんかどうかわからんけど。じゃったら、我々説明のうてやるんじゃったらわしはわかりにきいんじゃ、やっぱり納得しようらんわけじゃ。ええことをしようろうと何であろうと、筋を、議長もそうやって気持ちよう出とうなかるう、はっきり言うて。出てえかな、議長。

○議長（金谷文則君） ちょっと一言言わせて。今の話で議長に相談、相談っていう話がずっと出てますけど、私は日にちが6月2日があいとるかどうかという話をされただけの話であって、この公民連携をするんだったらちゃんとそりゃあ総務の中で話をしてくださいよという話をちゃんとしとるわけで、私は2日はもともとは議長会があっておりませんと、出席できませんよという話をしとったわけですから。申しわけないけど、私と相談しながら物が進んでいきようることだけは、そういう形ではないんで御理解をいただきたい。

○委員長（北川勝義君） いや、そう聞いてねえ。今言うた5月12日に説明会のときに14時から直原部長のほうで議長と御相談させてもろうて、連休明けにすぐ相談してやらせてもろうていきよんじゃと言うけん、議会ともと言うけ、いつ議会が聞いとんならと、こういう話をしたん。それで、議長にも電話したら留守電じゃった。それで、佐藤議員に電話して佐藤議員電話くれた。話をしたら、議長もその後で、もうよろしい、好きにしんせえ言うた、腹立つとるから。腹立つよ、そりゃあ。市長ともその後も話した、直原君も来られた。来ても来んでもええと、同じことを何遍言うてもわけわからんのじゃけえ言うた。僕はそんなこと、くじをくりよんじゃのうて、やることはええんじゃけど、これがええことであろうとびちっと説明してくれにゃあおえんし、誰でもじゃろうがな、おめえ。平君、自分とこの娘が結婚しようというのに隣のおっさんと決定話をしちやあいけまあが、おめえのとけえ1番に来にゃあ。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

○財務部長（直原 平君） 議長さん……。

○委員長（北川勝義君） いや、言うたことは間違いなからう、今言うたこと、あんたが言うたこと。佐々木さんも聞きょうたな。

○財務部長（直原 平君） 今までのことと言いますと、議長さんには日程だけ御相談させていただいたということで、事業内容につきまして詳しいことを申し上げたということではございません。

○委員長（北川勝義君） じゃったら、そう日程だけをしたんじゃ言わないけんがな。議会と相談させてもろうて議長さんともやってやりようりますというて言うけ、それで佐々木さんともあんとするて、これ問題になるでというてやったがな。

○委員（下山哲司君） 委員長、ええがなもう。また全協のときでも説明してくれるが。

○委員長（北川勝義君） いや、全協も説明。全協のとき説明やこうしたところでしゃあねえがな、おめえ。調印するのは決まっとるこっちゃもう。まあそりゃあよろしい、じゃけえそれ以上言やあしません。これからあんたらがそれええと思うたらそういうやり方をせられえ、これから。市長を初め、それが一番ベストじゃとやってください。

はい、他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ教育委員会。

○教育総務課長（藤井和彦君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○教育総務課長（藤井和彦君） 教育委員会の資料1ページをお願いいたします。

6月に上程予定の補正予算につきまして説明申し上げます。

まず、教育総務課の関係でございます。

1番の吉井中学校プール整備事業につきましては、4月に内示を受けました国の学校施設環境改善交付金とあわせまして、過疎対策事業債を財源として整備するための予算をお願いするものでございます。プール整備につきましては、先月の委員会で従来のプール管理運営の方針変更について説明を申し上げました。また、地域の要望といたしまして、吉井中学校のプール整備につきまして、4月の吉井地域の区長会で34地区中33地区の区長さん方から要望書という形で御賛同をいただきました。この後押しを受けまして、教育委員会といたしましてプールの整備をしたいということでございます。

6月補正では、1期工事分といたしまして既存プールの解体工事設計、施工監理委託料、解体工事費を計上するものでございます。

まず、歳入の①教育費国庫補助金565万6,000円につきましては、第1期工事として既存プールの解体工事に対する学校施設環境改善交付金の内定により計上するものでございます。

②の過疎対策事業債1,010万円につきましては、地方負担分の財源として計上するものでございます。

次に、歳出の教育総務費、事務局費の264万円につきましては、既存プールの解体設計、施工監理委託料を計上するものでございます。

②の中学校費、学校管理費の1,320万円につきましては、既存プールの解体工事費を計上するものでございます。

続いて、2番の学校施設耐震補強事業につきましては、磐梨中学校の体育館の非構造部材の耐震補強工事につきまして、財源として国の交付金を見込んでおりましたけれども、国の財政事情等ございまして不採択となりました。教育委員会としましては、市の単独事業といたしまして有利な財源として緊急防災・減災事業債を活用して工事を実施したいというふうに考えております。

まず、歳入の①教育費国庫補助金333万2,000円の減額につきましては、学校施設環境改善交付金が不採択となったことによりまして減額するものでございます。②の教育債500万円の減額につきましては、国庫補助事業を対象とする地方債の減額でございます。③の緊急防災・減災事業900万円につきましては、財源の振りかえを計上するものでございます。

教育総務課は以上です。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○副委員長（佐々木雄司君） はい、土井課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 2ページをお開きください。

今回、6月補正でアートプロジェクトおかやま振興事業ということで補正をさせていただきます。アトラリーが市内の芸術家の実行委員が立ち上がっておりまして、2010年から3年置きにさせていただいております。今回、岡山県のほうも晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーンや瀬戸内国際芸術祭2016の相乗効果を念頭に、県内各地に実施するアートイベントに対して新たに補助をさせていただけるということで新規事業がスタートいたしました。それで、あかいわアトラリーにつきましても、新規事業として今年度採択されるように内諾を得ました。赤磐市におきましても3年に1遍、アトラリーの実行委員会が計画をしたいということで申し出がありましたので、この6月に補正させていただいて、50万円のアートプロジェクトおかやま振興事業補助金を計上させていただいております。なお、県補助につきましては実行委員会に直接交付するため、市につきましても実行委員会のほうに50万円のほうを助成させていただくということでございます。

アトラリーの2013年につきましては実績を3ページのほう、あと今年度の計画につきましては4ページのほうに実施計画をさせていただいておりますので、ごらんになってください。よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうの説明が終わりました。

何か質問はありませんか。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） プールの問題なんじゃけど、この前の議会で削除して議決したような状況下にあるんじゃないけど、この予算で見れば解体だけじゃから、別に解体は使わんとなるなら僕らも銭があるんなら解体してもらいてえという気持ちを持つとるから、それはもうそれで反対はしませんけど、ほんならというてこれをやったから新築をやるという話じゃあどうも賛成はできんと思うんで、その辺は今後ゆっくり考えてもらやあええんで。一応解体については反対する意思はないんで、その辺は申し上げときます。吉井地域が今何を求めとんかというのがまず一番で、このプールなんかも吉井地域の人集まりの中では話が出るん。出の中で、プールは今B&Gを改修して、あそこに就学前の子供も行くんです。子供が行ったら、今度は小学校へ行ったら小学校のプールが汚えからおえんと、あねえな汚えところに入れんという子供もおるん。やっぱりそういう方向でお金を使っただけのんなら、年間45日も全校生徒がかわり交代で使うような施設ですから大賛成でするんですけど、意見として言うときますけど、本来ならこの事業も3月の当初で否決されたものをまた続けて出すという考え方自体は間違いだと思ふんです、考え方自体。だけど、補助金がもらえて片づけができるんじゃないということになれば、それはまた反対する理由ものなるんで、その辺はきちっと説明をしてもらうてやっていただきたいというように言っときます。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○委員（光成良充君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、光成委員。

○委員（光成良充君） アートラリーの件なんですけれども、前回平成25年にされているのを私も農業公園に発泡スチロールのおもちゃをつくりに行った覚えがあるんですが、この中で前回出られた方と今回出られた方はまた別だと思ふんですけれども、この中で赤磐市の作家の方っていうのはどれくらいの方が出られるのかっていうのをお聞きしたいと思ふます。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長、はい。

あかいわアートラリーの実行委員会は、ほとんどが赤磐市の作家の方でございます。今回は、障害者の作家の方も2名赤磐市のほうからされるということでお聞きしております。今回は、9日間、12カ所ということで頑張っって開催したいということで申し出がありましたので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（光成良充君） はい。

○委員長（北川勝義君） その絡みで、7番の元赤坂郵便局というたらどこ。何か恥ずかしい

話を。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） あそこのスーパーが……。

○委員長（北川勝義君） スーパーの隣のとこかな。もう郵便局じゃねえん、あそこ。

○副委員長（佐々木雄司君） いや、今も郵便局。

○委員長（北川勝義君） 郵便局じゃろう。

○赤坂支所長兼市民生活課長（正好尚昭君） いや、旧……。

○委員長（北川勝義君） 支所長。

○赤坂支所長兼市民生活課長（正好尚昭君） 今郵便局は道沿いにございます。

○委員長（北川勝義君） 裏側の。

○赤坂支所長兼市民生活課長（正好尚昭君） 赤坂ストアの旧町なかに入って行って……。

○委員長（北川勝義君） 旧町なかの通りじゃな。

○赤坂支所長兼市民生活課長（正好尚昭君） ストアをちょっと過ぎた50メートルほど行ったところの左手のほうにございます。

○委員長（北川勝義君） ハバラさんのとこじゃな、わかったわかったわかった。わかったわかった。いや、わしはこっちを今しょうる、今しょうるというのは。わかった、わかりました。失礼しました。

せえでも、極端な話、こりゃまあ個人のもんじゃあれかもしれんけど、元赤坂郵便局やこう、さっきの話に戻るけど、愛着持っとして赤坂の人やそこらでなった人は保存してほしいというて言うけど、今のあれじゃったら、要らんけえ早うめげえというかもしれんわな。いやいや。

○赤坂支所長兼市民生活課長（正好尚昭君） 済いません。

今ちょっと詳しくはわかりませんが、新しい方が入ってこられまして、もとの郵便局を昔のようにちょっと復元したような状態に今やりつつあるので……。

○委員長（北川勝義君） いや、違う違う。そうじゃけどな、そうじゃのうて、さっきのほうのというのをやったら、ああいうとこは必要ねえからというて言うかもしれんなどというて話しようとした。よろしいです。

はい、佐々木委員。

○副委員長（佐々木雄司君） アートラリーについてなんですが、多分出展できるものが範囲が決まっている、こういうようなものというのがあると思うんですけど、1つこんなどうなんでしょうかということで、もし今現在その範囲に入ってなければぜひ、やっていただける、いただけないというところは別にしまして、検討いただきたいと思うんですが、実はうちの赤磐市、結構ダンスをおやりになられてるダンスチームの方々がいらっしゃいますけども、時折その映像、音と光とダンス、これを組み合わせたようなアートとかもあると思うんですよ。そういうようなものも、オブジェみたいなものを限定したアートなのか、それとも人が行き来

するものもアートとして捉えて申請をすれば出展が可能になるのか。そんな話聞いているわけじゃないんで、特に聞いている話じゃないもんですから、ちょっとミスリードで先行ってるのかもしれないんですが、間違いなくおやりになられてる方々はいらっしゃるので、もしそういう機会があればやりたいわとおっしゃるような方も出てくるのかなと思ったりもしまして。どんなんでしょう、そこら辺は。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 今回ののは、以前はつくった作品を見るだけの鑑賞でしたんですけど、今回の分につきましては、こちらにも4ページに書いておりますとおおり、今回初めて来場者が自由に物づくりに参加し、アーティストと一緒にすることを楽しむ企画を考えております。今、佐々木委員から要望があった件につきましても、アートの実行委員会のほうに要望等でさせていただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ次に移りたいと思ひます。

消防本部お願ひします。

○消防本部消防次長兼警防課長（小竹森美宏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、次長。

○消防本部消防次長兼警防課長（小竹森美宏君） 消防本部からは、高規格救急自動車の更新事業の進捗状況について報告をさせていただきます。

今回更新させていただきます予定の救急車ですが、緊急消防援助隊の登録車両の更新となりますので、緊急消防援助隊設備整備費補助金、これの交付申請を行っておりました。その決定通知が4月22日に来ましたので、この通知を受けまして現在事務を進めておるところでございます。資料に記載しておりますとおおり、今月19日に入札を行いまして、業者が決まりましたら仮契約をさせていただき、6月議会へ議案上程をさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 何か質問ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ終わりたいと思ひます。

続きまして、議会事務局。

○議会事務局長（奥田吉男君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、局長。

○議会事務局長（奥田吉男君） お手元のほうに配付させていただきました資料で、平成28年度一般会計補正予算（第2号）に予定をさせていただいた内容でございます。百条委員会に関する経費としまして103万6,000円を当初予算に計上いたしておりました。平成28年3月に特別委員会のほうが廃止されたため、その経費に伴うものを議会費の中から減額を予定いたしております。一般管理費及び定例会、委員会費として、総額で103万6,000円の減額を予定いたしております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 議会事務局のほうが一番最後になる、何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければこれで終わりたいと思います。

続きまして、その他に入りたいと思います。

○総合政策部参与（徳光哲也君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 徳光参与。

○総合政策部参与（徳光哲也君） その他で1点御報告をさせていただきます。

資料はございませんが、映画「種まく旅人～夢のつぎ木～」でございますが、市民の皆様や議員の皆さんに大変御関心を持っていただいていると思いますけども、現在、編集作業が順調に進んでおまして、今度の5月24日の火曜日になりますけども、イオンシネマ岡山のほうで関係者の試写会がございます。関係者といいますと、協賛会社でありますとか協力委員会、あるいは撮影に御協力をいただいた方々が対象ということでございまして、現在そういった状況になっているということを御報告をさせていただきます。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○総合政策部長（原田昌樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 原田部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） ちょっと御相談したいことがあるんですが、御報告と。この場ではあれなので、できましたら協議会のほうに切りかえていただきたいと思います。案件は映画絡みでございます。

○委員長（北川勝義君） ほんなら一旦委員会済ませて協議会させてもらおうか。

○副委員長（佐々木雄司君） 委員会済ませて協議会。

○委員（下山哲司君） 委員会の中で協議会じゃから済ましちゃいけん。

○委員長（北川勝義君） 暫時にしようか。

それでは、これから暫時休憩とします。

午後0時33分 休憩

午後0時51分 再開

○委員長（北川勝義君） それでは、委員会に戻します。

その他ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） その他ないということで、これで終わりたいと思います。

それでは、閉会に当たりまして、失礼、その他。

はい、原田部長。

○総合政策部長（原田昌樹君） 済いません。先ほどの資料回収させていただけたらと思います。

○委員長（北川勝義君） その他よろしいな。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） それでは、これで第5回の総務文教常任委員会を終わりたいと思います。

閉会に当たりまして、教育長のほうから御挨拶をお願いしたいと思います。

○教育長（杉山高志君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、杉山教育長。

○教育長（杉山高志君） 本日は、各部からの補正予算案並びに進捗状況につきまして御報告をさせていただきました。慎重に審議をいただき、御意見をいただきました。真摯に受けとめて、緊張感を持って職務に向かいたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） 御苦労さまでした。

皆さん、大変御苦労さまでした。これで本日の委員会を閉会したいと思います。

御苦労さまでした。

午後0時53分 閉会